

2022年度 日本財団
「VR を活用したスポーツ・コンプライアンス教育の普及」
成果報告書



令和5年3月

一般社団法人スポーツ・コンプライアンス教育振興機構

目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 第1章 コンテンツの開発 | 1 |
| 1.1 パワーハラスメントのコンテンツ開発 | 2 |
| 1.1.1 被害者の視点 | 2 |
| 1.1.2 加害者の視点 | 3 |
| 1.1.3 傍観者の視点 | 3 |
| 1.1.4 全体の流れがわかるコンテンツ | 4 |
| 1.2 体罰・暴言のコンテンツ | 5 |
| 1.2.1 被害者の視点 | 5 |
| 1.2.2 加害者の視点 | 6 |
| 1.2.3 傍観者の視点 | 7 |
| 1.2.4 全体の流れがわかるコンテンツ | 7 |
| 1.3 セクハラの内容 | 8 |
| 1.3.1 被害者の視点 | 8 |
| 1.3.2 加害者の視点 | 8 |
| 1.3.3 傍観者の視点 | 9 |
| 1.3.4 全体の流れがわかるコンテンツ | 10 |
| 第2章 アンケートの設計 | 11 |
| 2.1 目的、アウトカム | 11 |
| 2.2 アンケートの作成 | 11 |
| 2.2.1 生徒向けパワーハラスメントについてのアンケート | 12 |
| 2.2.2 生徒向け体罰・暴言についてのアンケート | 13 |
| 2.2.3 生徒向けセクハラについてのアンケート | 14 |
| 第3章 実証授業の実施、効果検証 | 15 |
| 3.1 実証授業の実施 | 15 |
| 3.2 生徒向けアンケートの集計・分析結果 | 16 |
| 3.2.1 パワーハラスメントのアンケート集計・分析結果 | 16 |
| 3.2.2 体罰・暴言のアンケート集計・分析結果 | 23 |
| 3.2.3 セクハラの内容のアンケート集計・分析結果 | 30 |
| 3.3 教員向けアンケートの集計・分析結果 | 37 |
| 第4章 参考資料 | 42 |
| 4.1 パワーハラスメントについての自由回答 | 42 |
| 4.2 体罰・暴言についての自由回答 | 49 |
| 4.3 セクハラについての自由回答 | 54 |

第1章 コンテンツの開発

VR を活用したスポーツ・コンプライアンス教育を普及させるために、スポーツ指導の現場で起こるハラスメント等を

①パワーハラスメント

②体罰・暴言

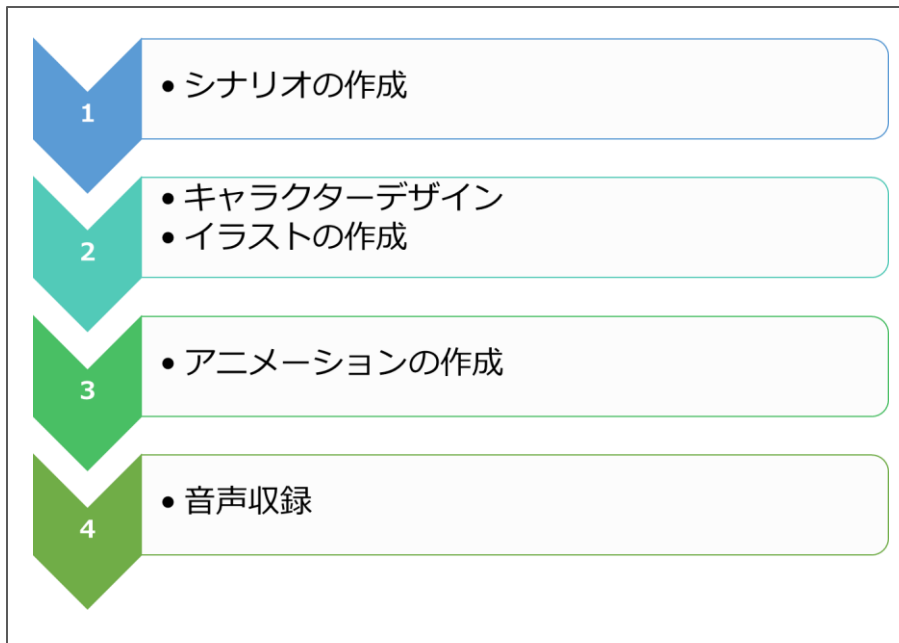
③セクハラ

に分け、それぞれ

- ・被害者
- ・加害者
- ・傍観者

の 3 つの視点から考えることができるコンテンツに加え、問題が発生したときの全体の状況を把握できるコンテンツを開発した。

下図のようなプロセスで、スポーツ指導の現場で起こるハラスメント等をドラマ仕立てのまんがアニメーションを作成した。



コンテンツの作成にあたり、11 回にわたり事業推進委員会を開催し、東京大学教育学部附属中等教育学校の保健体育の教員等にご協力をいただき、プロセスごとにご意見、アドバイスをいただいた。

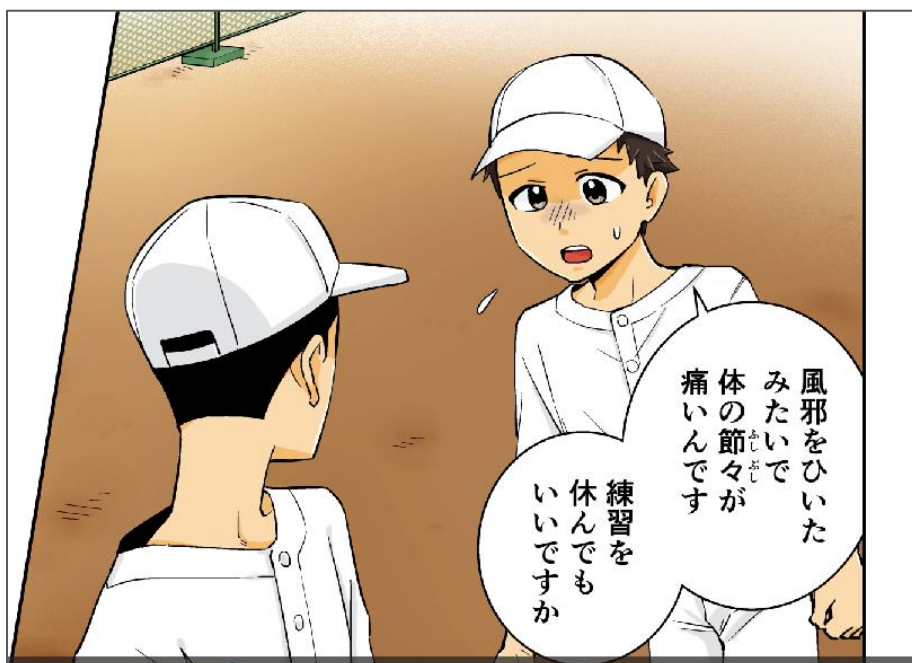
1.1 パワーハラスメントのコンテンツ開発

あらすじは以下の通りである。

主人公は、中学1年生の男子野球部員の颯太。2年生のキャプテンは、張り切って練習に励もうとしている。颯太が発熱して体調が悪いときでも、キャプテンは休まさせてくれない。颯太は無理して部活動を休まずに練習したが、ついにキャプテンに「部活動を辞めさせてほしい」と願い出る。

1.1.1 被害者の視点

被害者の視点でストーリーをまとめ、被害者の気持ちに寄り添い、共感できるように心がけ、コンテンツを開発した。



1.1.2 加害者の視点

加害者の視点で、ストーリーをまとめた。キャプテンは加害者ではあるが、1年生が熱心に練習して上手になってほしいという気持ちがあったことを盛り込んだ。



1.1.3 傍観者の視点

傍観者（第三者）の視点で、どのように行動したらよいかを生徒に考えさせるためのコンテンツを制作した。このコンテンツでは、傍観者は主人公と同じ同学年の部員とした。



1.1.4 全体の流れがわかるコンテンツ

被害者、加害者、傍観者の視点ではなく、全体のストーリーの流れがわかるコンテンツを制作した。授業の導入部分でこのコンテンツを視聴させて、授業を展開するのに役立つ。



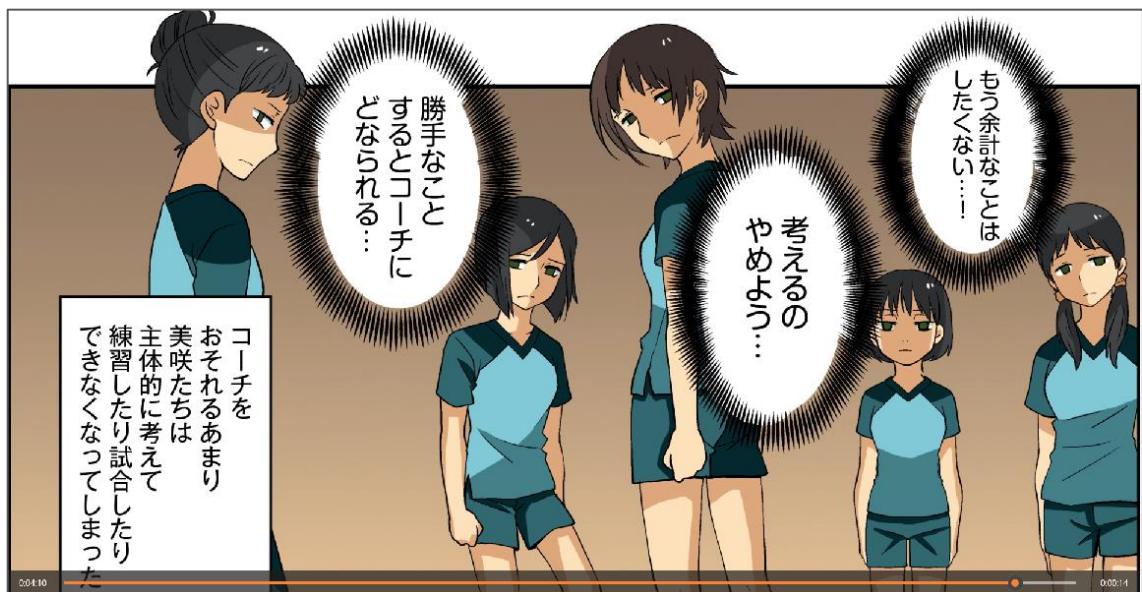
1.2 体罰・暴言のコンテンツ

あらすじは以下の通りである。

ハンドボール部の強豪校に、外部指導者として新たにコーチが着任した。コーチはチームを強くしたいという気持ちが勝って、キャプテンに体罰を加え、暴言を吐く。主人公のキャプテン美咲（高校1年生女子）が体罰・暴言の被害に遭う。

1.2.1 被害者の視点

被害者の視点でストーリーをまとめ、被害者の気持ちに寄り添い、共感できるように心がけ、コンテンツを開発した。



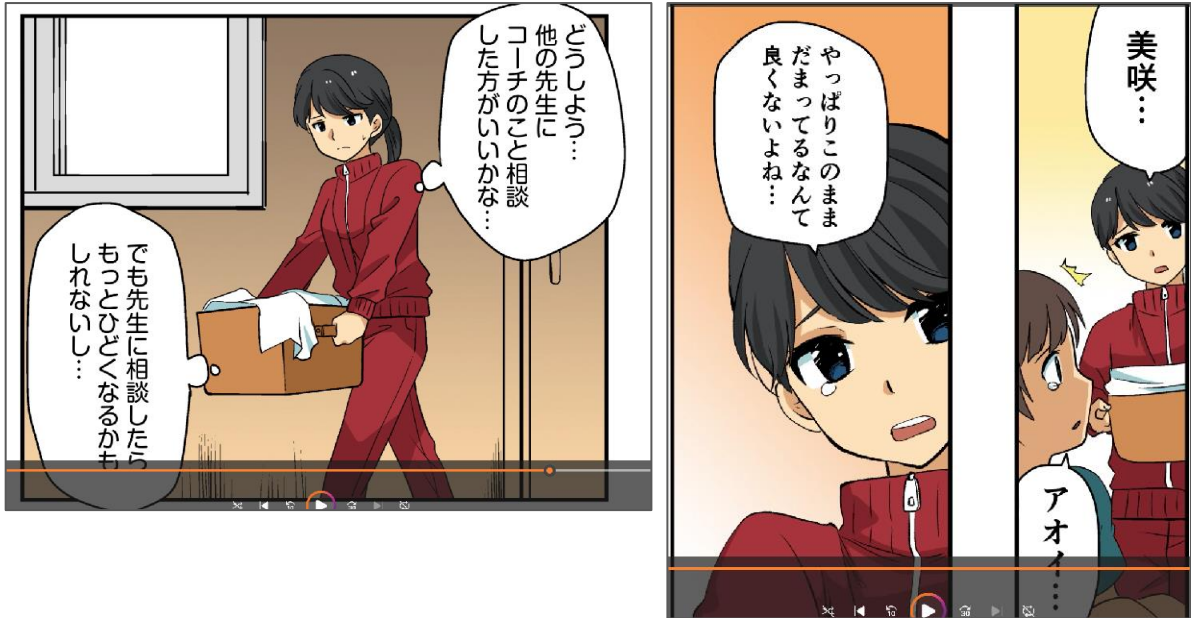
1.2.2 加害者の視点

加害者の視点で、ストーリーをまとめた。コーチは加害者ではある。チームを強くするという気持ちがあったものの、ボールなどを投げつけ、主人公の体と心を傷つけた。勝利至上主義の行き過ぎは、部員のやる気を失わせ、部員が自ら主体的に考えなくなることにつながる。



1.2.3 傍観者の視点

傍観者（第三者）の視点で、どのように行動したらよいかを生徒に考えさせるためのコンテンツを制作した。このコンテンツでは、傍観者は、ハンドボール部のマネージャーとした。



1.2.4 全体の流れがわかるコンテンツ

被害者、加害者、傍観者の視点ではなく、全体のストーリーの流れがわかるコンテンツを制作した。授業の導入部分でこのコンテンツを視聴させて、授業を展開するのに役立つ。



1.3 セクハラの内容

あらすじは以下の通りである。

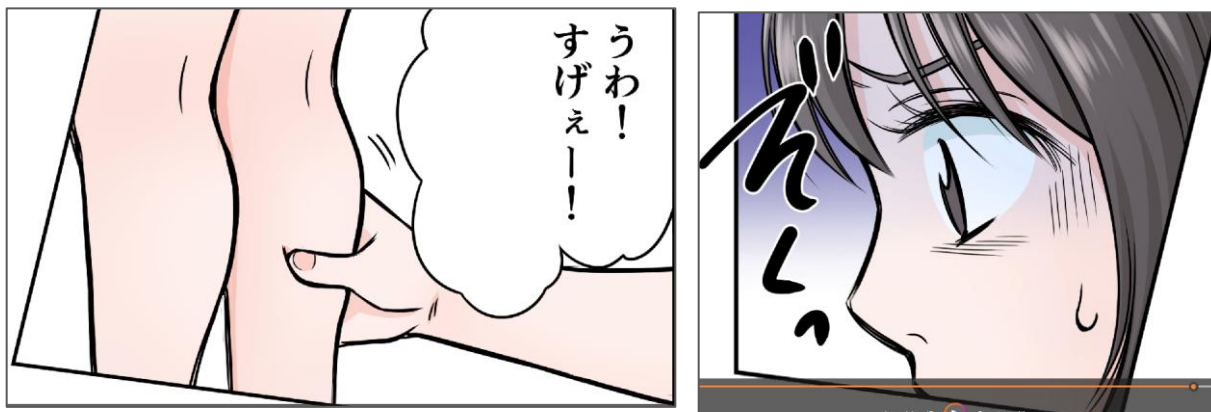
主人公の玲奈は、中学1年生の陸上部員（女子）。

玲奈は少しでも速く走りたいと筋トレ（筋力トレーニング）に励んだ成果、いわゆる筋肉質体型になり、引き締まってきた。

同じ中学1年の幼なじみ男子部員の大樹が玲奈に近づいてきて、「引き締まってカッコいいね。」と言って、いきなりふくらはぎを触った。玲奈は、肌に触れられていやな思いをした。

1.3.1 被害者の視点

被害者の視点でストーリーをまとめ、被害者の気持ちに寄り添い、共感できるように心がけ、コンテンツを開発した。



1.3.2 加害者の視点

加害者の視点で、ストーリーをまとめた。加害者は、主人公と同学年の男子陸上部員。玲奈と同じ小学校に通い、陸上競技の練習に取り組んだ。ゲームが好きで、陸上の練習を怠りがち。

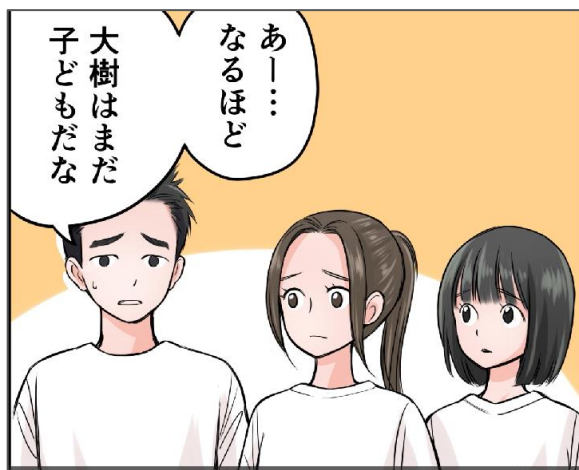
中学1年生という年齢は、女子の方が身長が伸びる一方、男子はまだ子どもっぽさを残している。そうした年代で、悪気はないものの、興味本位から女子の体に触れてしまったというストーリーを作成した。





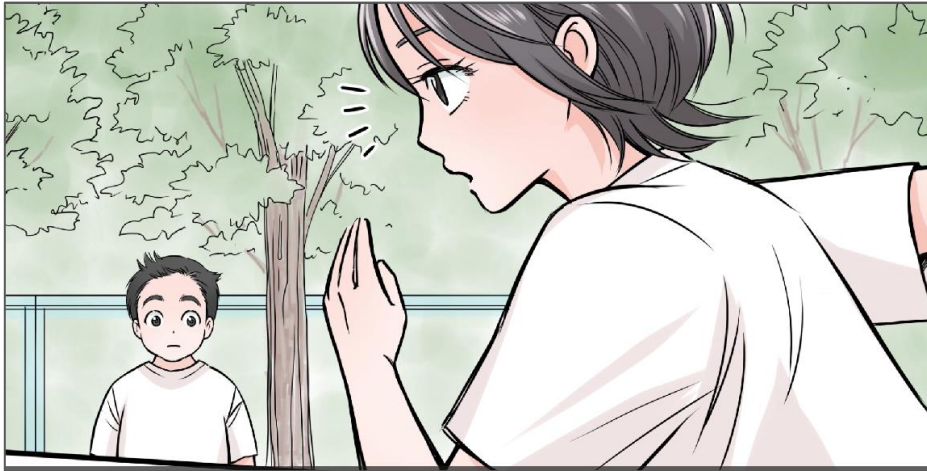
1.3.3 傍観者の視点

傍観者（第三者）の視点で、どのように行動したらよいかを生徒に考えさせるためのコンテンツを制作した。このコンテンツでは、傍観者は、部活動の顧問の先生と陸上部の先輩を想定した。



1.3.4 全体の流れがわかるコンテンツ

被害者、加害者、傍観者の視点ではなく、全体のストーリーの流れがわかるコンテンツを制作した。授業の導入部分でこのコンテンツを視聴させて、授業を展開するのに役立つ。



第2章 アンケートの設計

コンテンツを活用した実証授業の効果を検証するため、以下のようなアンケートを設計した。

2.1 目的、アウトカム

実証授業の効果を検証するため、生徒向け及び教員向けにアンケート調査を行う。

効果検証のアウトカムは、以下の通りである。

- ・生徒が、実証授業に満足する（満足度）。
- ・生徒が、実証授業の内容を理解する（理解度）。
- ・生徒が、実証授業で学んだことをもっとよく知りたいと思う（意欲の向上）
- ・生徒が、被害者、加害者、傍観者の視点で考えることができた（意識の変容につながる要素）

2.2 アンケートの作成

- ・生徒向け
- ・教員

向けにアンケートを作成した。

回答者は、以下の4つの選択肢の中から該当するものを選ぶこととした。

- 1 とてもそう思う
- 2 そう思う
- 3 そう思わない
- 4 まったくそう思わない

2.2.1 生徒向けパワーハラスメントについてのアンケート

生徒向けパワーハラスメントについてのアンケートは、以下の通りである。

| | |
|----|------------------------------------------------|
| 1 | この授業はためになった。 |
| 2 | まんがアニメーションのストーリーを理解できた。 |
| 3 | パワーハラスメントとは何かを理解できた。 |
| 4 | 被害者の視点で考えることができた。 |
| 5 | 加害者の視点で考えることができた。 |
| 6 | 傍観者（第三者）の視点で考えることができた。 |
| 7 | パワーハラスメントにあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた。 |
| 8 | パワーハラスメントの加害者にならないためにはどのように行動したらよいかを理解できた。 |
| 9 | パワーハラスメントを見かけた場合、傍観者（第三者）がどのように行動したらよいかを理解できた。 |
| 10 | パワーハラスメントをどのように防止、予防したらよいかを理解できた。 |
| 11 | 今日学んだことをもっとよく知りたい。 |
| 12 | 授業についての感想を自由にご記入ください。 |
| 13 | まんがアニメーションの感想を自由にご記入ください。 |
| 14 | この授業で学んだことをご記入ください。 |

2.2.2 生徒向け体罰・暴言についてのアンケート

生徒向け体罰・暴言についてのアンケートは、以下の通りである。

| | |
|----|--------------------------------------------|
| 1 | この授業はためになった。 |
| 2 | まんがアニメーションのストーリーを理解できた。 |
| 3 | 体罰・暴言とは何かを理解できた。 |
| 4 | 被害者の視点で考えることができた。 |
| 5 | 加害者の視点で考えることができた。 |
| 6 | 傍観者（第三者）の視点で考えることができた。 |
| 7 | 体罰・暴言にあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた。 |
| 8 | 体罰・暴言の加害者にならないためにはどのように行動したらよいかを理解できた。 |
| 9 | 体罰・暴言を見かけた場合、傍観者（第三者）がどのように行動したらよいかを理解できた。 |
| 10 | 体罰・暴言をどのように防止、予防したらよいかを理解できた。 |
| 11 | 今日学んだことをもっとよく知りたい。 |
| 12 | 授業についての感想を自由にご記入ください。 |
| 13 | まんがアニメーションの感想を自由にご記入ください。 |
| 14 | この授業で学んだことをご記入ください。 |

2.2.3 生徒向けセクハラについてのアンケート

生徒向けセクハラについてのアンケートは、以下の通りである。

| | |
|----|------------------------------------------|
| 1 | この授業はためになった。 |
| 2 | まんがアニメーションのストーリーを理解できた。 |
| 3 | セクハラとは何かを理解できた。 |
| 4 | 被害者の視点で考えることができた。 |
| 5 | 加害者の視点で考えることができた。 |
| 6 | 傍観者（第三者）の視点で考えることができた。 |
| 7 | セクハラにあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた。 |
| 8 | セクハラに加害者にならないためにはどのように行動したらよいかを理解できた。 |
| 9 | セクハラを見かけた場合、傍観者（第三者）どのように行動したらよいかを理解できた。 |
| 10 | セクハラをどのように防止、予防したらよいかを理解できた。 |
| 11 | 今日学んだことをもっとよく知りたい。 |
| 12 | 授業についての感想を自由にご記入ください。 |
| 13 | まんがアニメーションの感想を自由にご記入ください。 |
| 14 | この授業で学んだことをご記入ください。 |

第3章 実証授業の実施、効果検証

3.1 実証授業の実施

東京大学教育学部附属中等教育学校の協力を得て、同校の中学生、高校生向けに実証授業を行った。

| | 体罰・暴言 | パワハラ | セクハラ |
|-----|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 1年生 | | 1月19日(木) 1, 2, 3 時間目 DeAL 教室 | |
| 2年生 | 1月16日(月) 1, 2, 6 時間目 DeAL 教室 | | 1月23日(月) 1, 2, 6 時間目 DeAL 教室 |
| 3年生 | 1月20日(金) 1, 2, 3 時間目 DeAL 教室 | | |
| 4年生 | 1月23日(月) 4, 5, 6 時間目 通常教室 | 1月16日(月) 4, 5, 6 時間目 通常教室 | 1月30日(月) 4, 5, 6 時間目 通常教室 |
| 5年生 | | | 1月19日(木) 5, 6 時間目 通常教室 |
| | | | 1月20日(金) 3 時間目 通常教室 |

DeAL 教室とは… Deep Active Learning の略

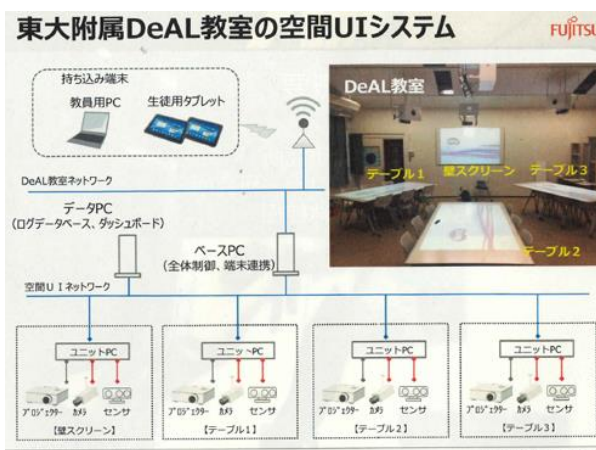
富士通研究所が開発した部屋全体をデジタル化する空間 UI (User Interface) 技術を用いてアクティブラーニングにおける生徒の活動の見える化を実現した教室。

空間 UI 技術は、壁や机などの共有スペースを丸ごとインタラクションスペースとして構成し、スマートデバイスからの持ち込み資料やデジタル付箋に書いたメモを大画面で共有することで参加者が顔を上げた状態で議論することができる技術。

これにより、部屋の壁やテーブルをはじめ、あらゆる場所がインタラクションスペースとすることを可能にするほか、持ち込んだ端末をすぐに利用でき、インタフェースを電子ペンで手書きで行うことから、直感的に利用できる。

ダッシュボードには、テーブルで頻繁に使われていたカ所を示すアクティビティマップを表示するほか、シーリングカメラで映像として記録できる。さまざまなイベントを時系列で操作履歴を表示し、イベントが密であればあるほど活動が活発であることが分かり、カーソルを置くと映像を確認することを可能としている。

授業で生徒がスマートデバイスで調べた内容やデジタル付箋に書いたメモ、それに対する作成・操作について時系列に収集することで、いつ、だれが、どのような内容を発信し、それに対してグループメンバーはどう動いたかを見える化する。



引用：マイナビニュース「東大と富士通がアクティブラーニングの実証・教室全体をデジタル化」

3.2 生徒向けアンケートの集計・分析結果

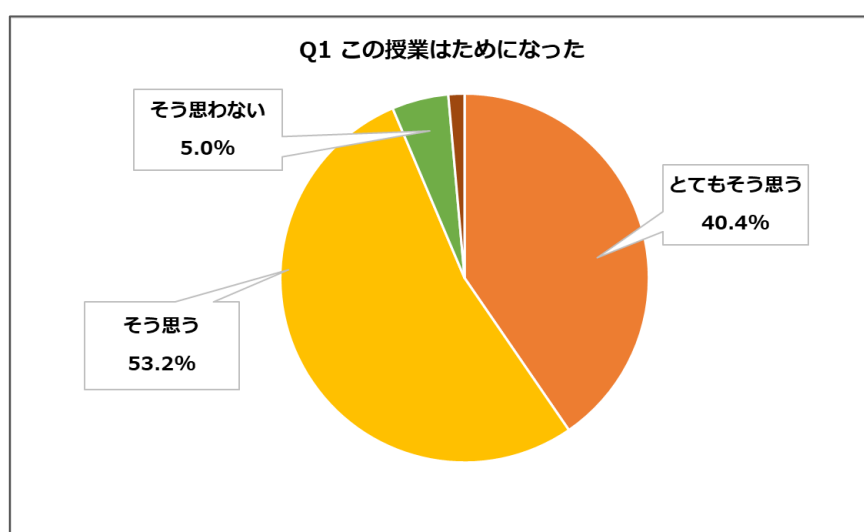
回答者数は、下表の通りである。

| パワハラ | 体罰・暴言 | セクハラ | 合計 |
|------|-------|------|-----|
| 141 | 193 | 205 | 539 |

3.2.1 パワーハラスメントのアンケート集計・分析結果

1. 満足度

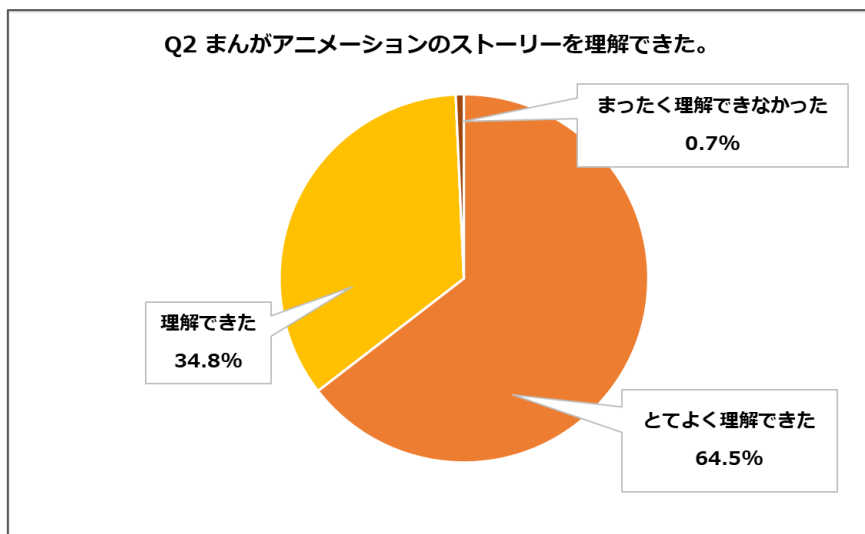
Q1 この授業はためになった



「とてもそう思う」「そう思う」を合計すると 93.6%に達し、93.6%の生徒が「ためになった」と回答している。

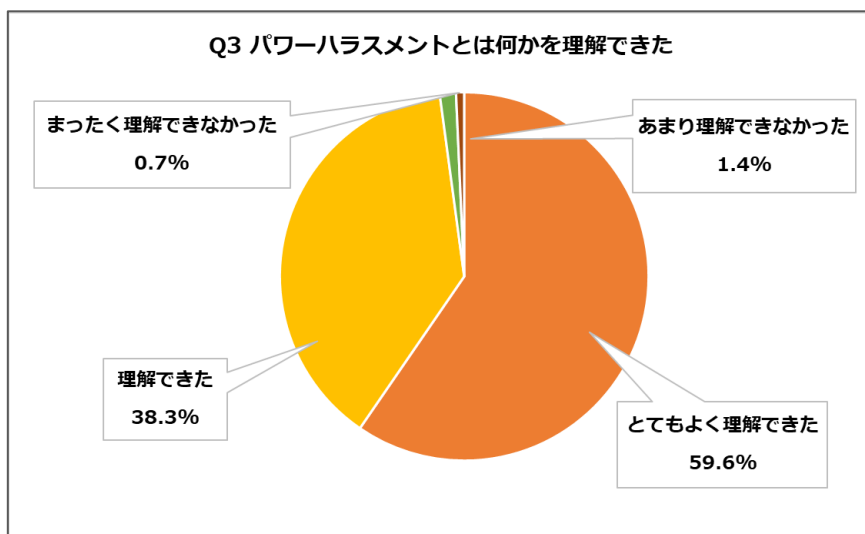
2. 理解度

Q2 まんがアニメーションのストーリーを理解できた



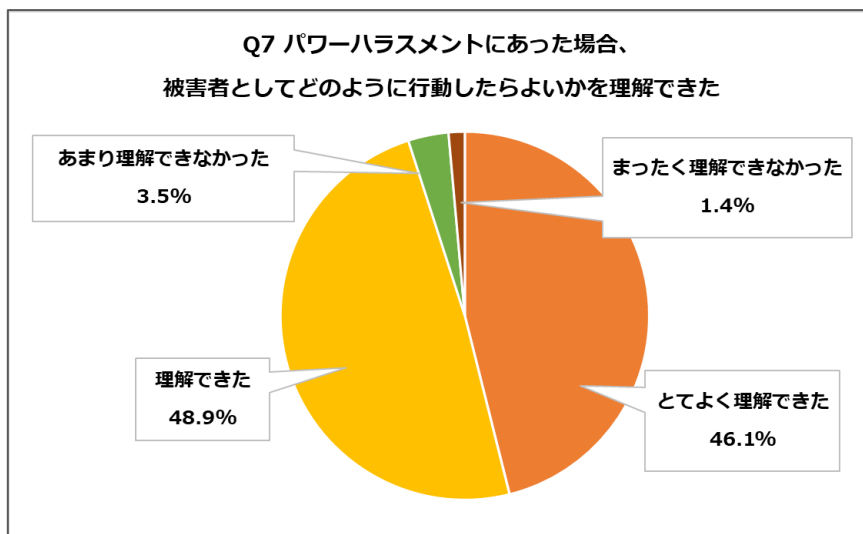
「とてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、99.3%の生徒がストーリーを理解できたと回答している。

Q3 パワーハラスメントとは何かを理解できた



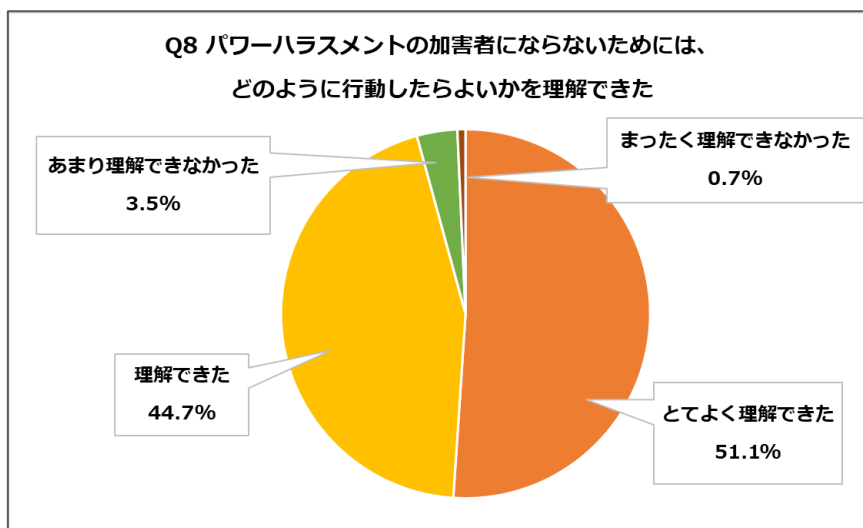
「とてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、97.9%の生徒がパワーハラスメントとは何かを理解できたと回答している。ただし、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が3名(2.1%)いた。

Q7 パワーハラスメントにあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた



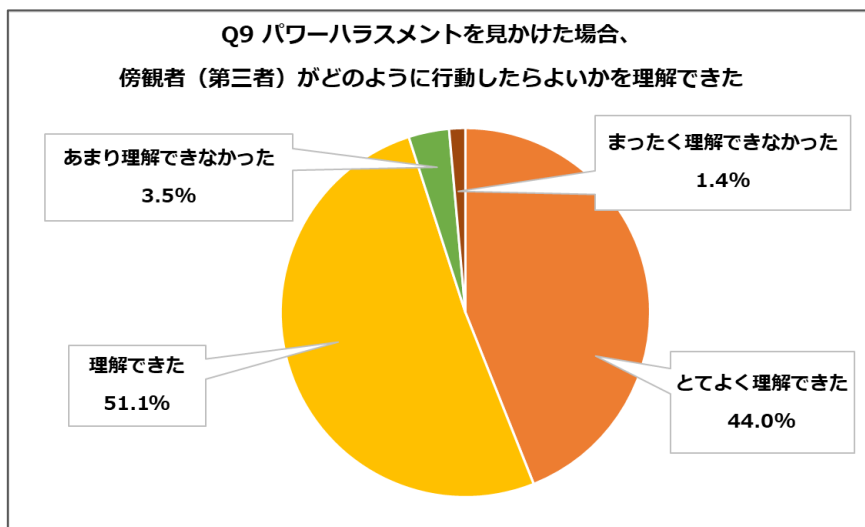
「とてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、95.0%の生徒が「パワーハラスメントにあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が7名（4.9%）いた。

Q8 パワーハラスメントの加害者にならないためにはどのように行動したらよいかを理解できた



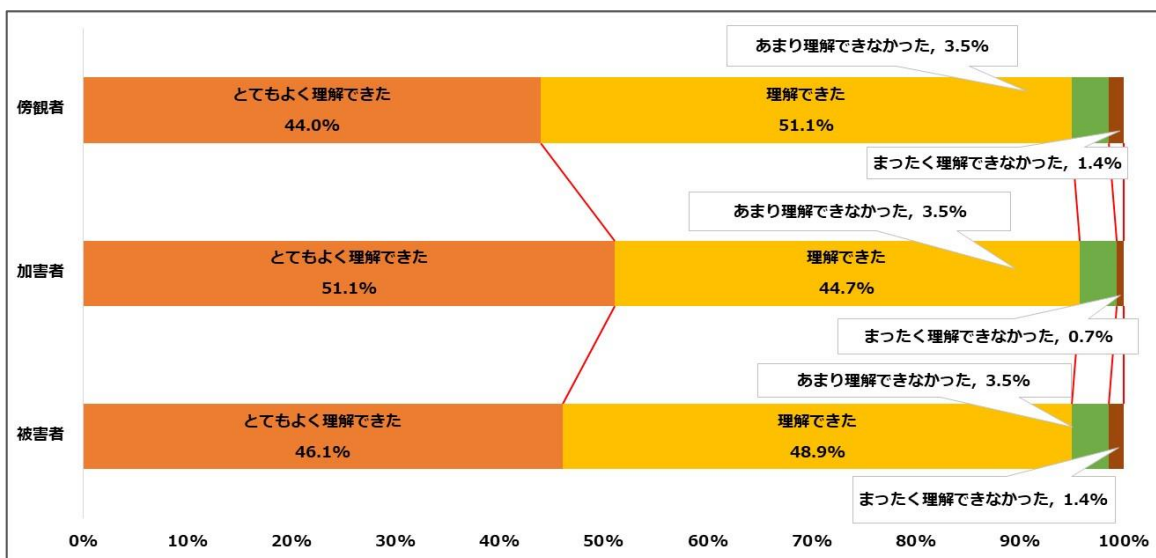
「とてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、95.8%の生徒が「パワーハラスメントの加害者にならないためにはどのように行動したらよいかを理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が6名（4.2%）いた。

Q9 パワーハラスメントを見かけた場合、傍観者（第三者）がどのように行動したらよいかを理解できた



「とてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、95.1%の生徒が「パワーハラスメントを見かけた場合、傍観者（第三者）がどのように行動したらよいかを理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が7名（4.9%）いた。

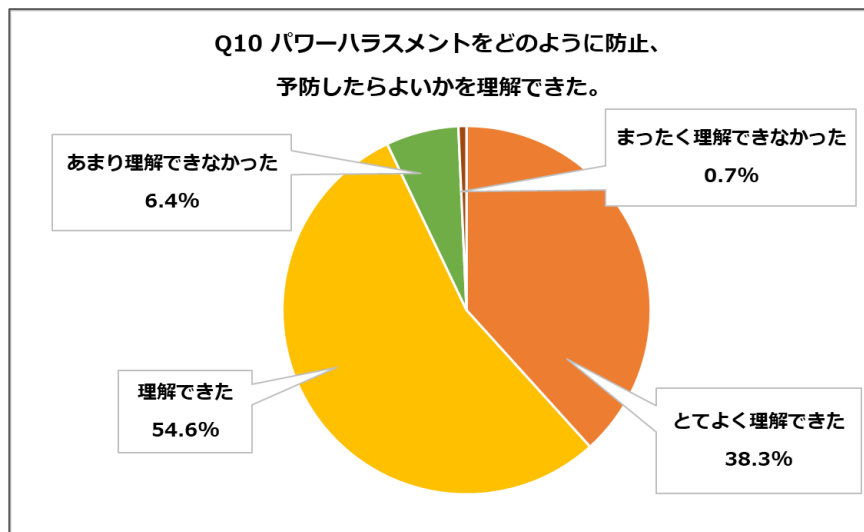
3つの立場になったときどのような行動をとったらよいかについての理解度の比較



- ・被害者としてどのような行動をとったらよいかについての理解度 95.0%
- ・加害者にならないためにどのような行動をとったらよいかについての理解度 95.8%
- ・傍観者としてどのように行動したらよいかについての理解度 95.1%

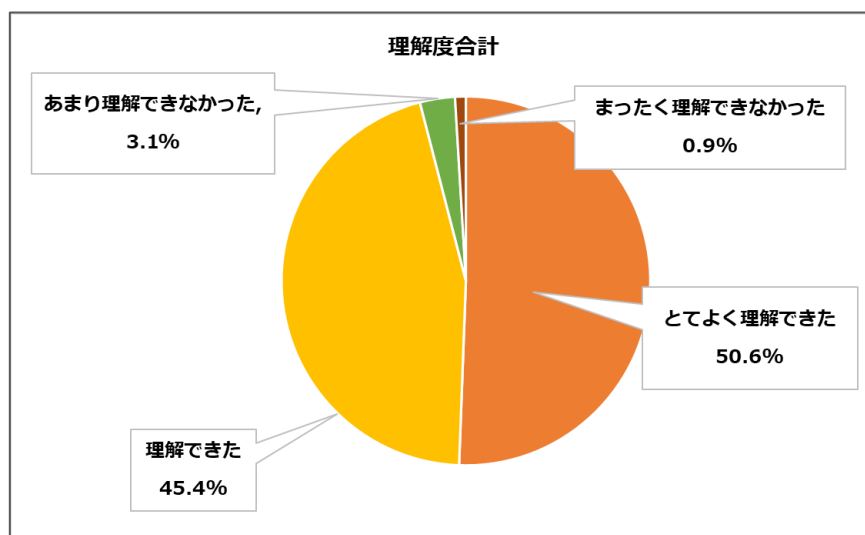
合計の理解度は、3つの立場で大きな変化はないが、加害者にならないための行動について「とてもよく理解できた」と回答した生徒の数が一番多かった。

Q10 パワーハラスメントをどのように防止、予防したらよいかを理解できた



「とてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、92.9%の生徒が「パワーハラスメントをどのように防止、予防したらよいかを理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が10名(7.1%)いた。Q2、Q3、Q7、Q8、Q9 と比べると、理解度がやや低い。

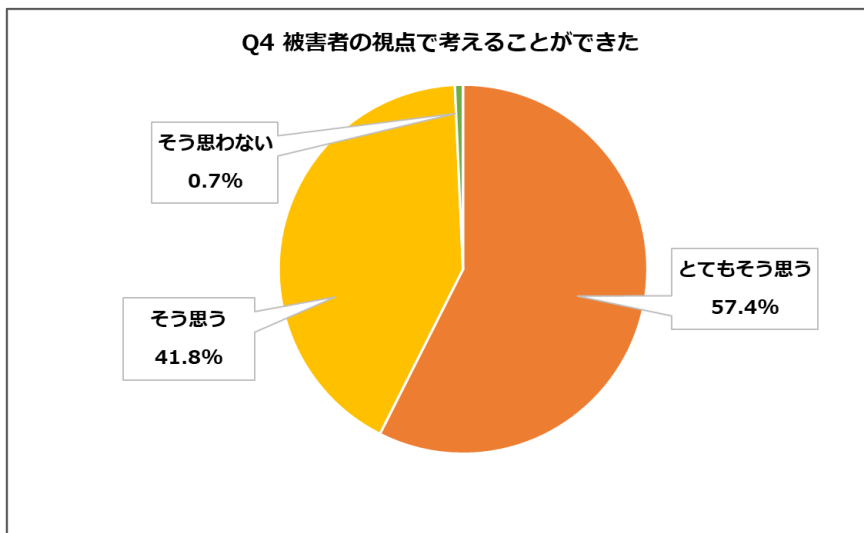
理解度合計(Q2、Q3、Q7、Q8、Q9 の合計)



「とてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、96.0%の生徒が理解している。

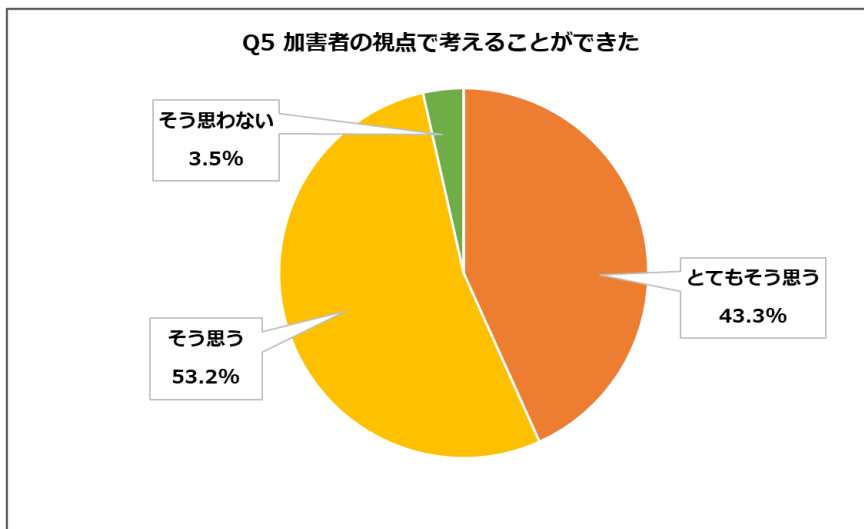
3. 意識変容につながる要素

Q4 被害者の視点で考えることができた



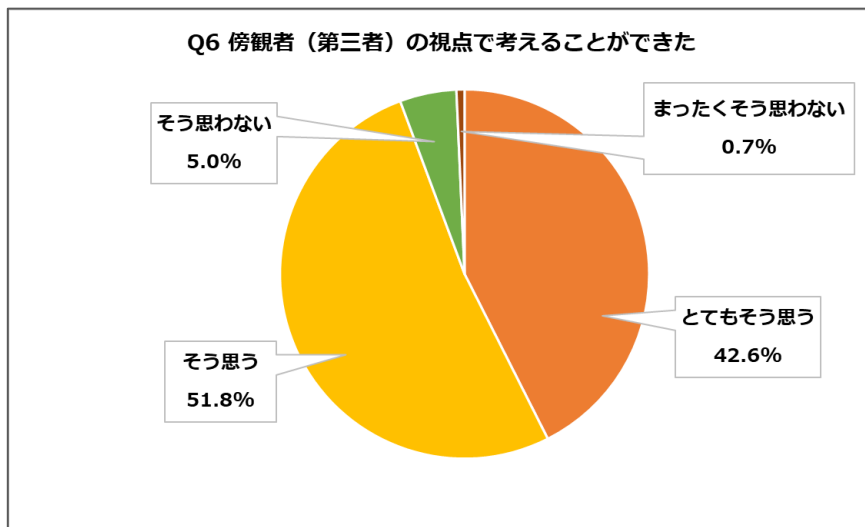
「とてもそう思う」「そう思う」を合計すると、99.2%の生徒が「被害者の視点で考えることができた」と回答している。

Q5 加害者の視点で考えることができた



「とてもそう思う」「そう思う」を合計すると、96.5%の生徒が「加害者の視点で考えることができた」と回答している。

Q6 傍観者（第三者）の視点で考えることができた



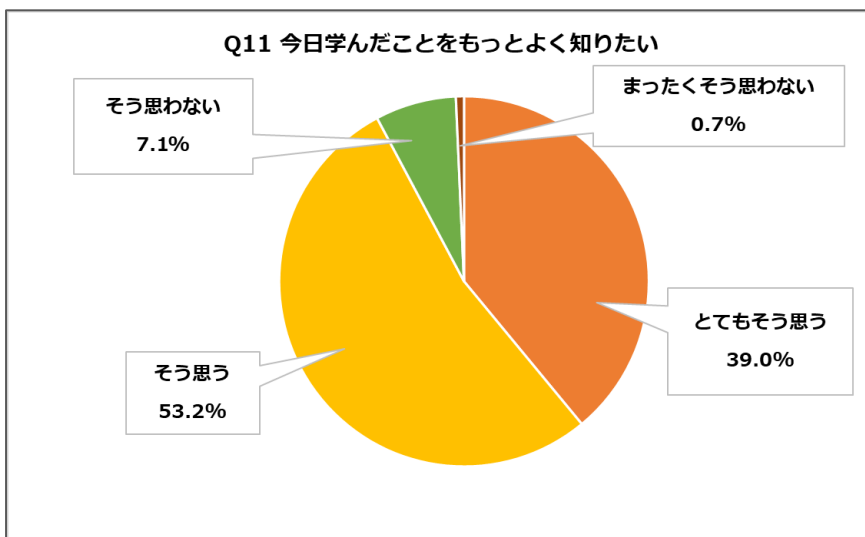
「ととてもそう思う」「そう思う」を合計すると、94.4%の生徒が「傍観者の視点で考えることができた」と回答している。

3つの視点の比較

- ・被害者の視点で考えることができた 99.2%
- ・加害者の視点で考えることができた 96.5%
- ・傍観者の視点で考えることができた 94.4%

4. 学習意欲

Q11 今日学んだことをもっとよく知りたい

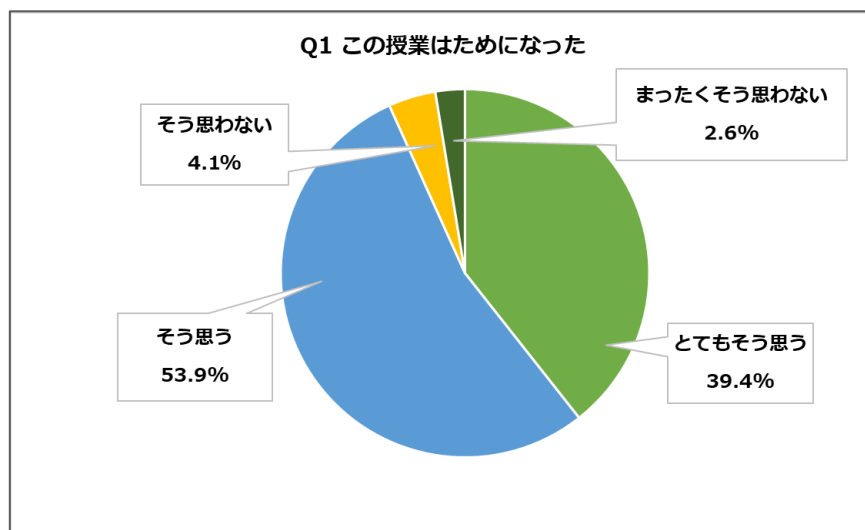


「ととてもそう思う」「そう思う」を合計すると、92.2%の生徒が「もっとよく知りたい」と学習意欲を示している。

3.2.2 体罰・暴言のアンケート集計・分析結果

1. 満足度

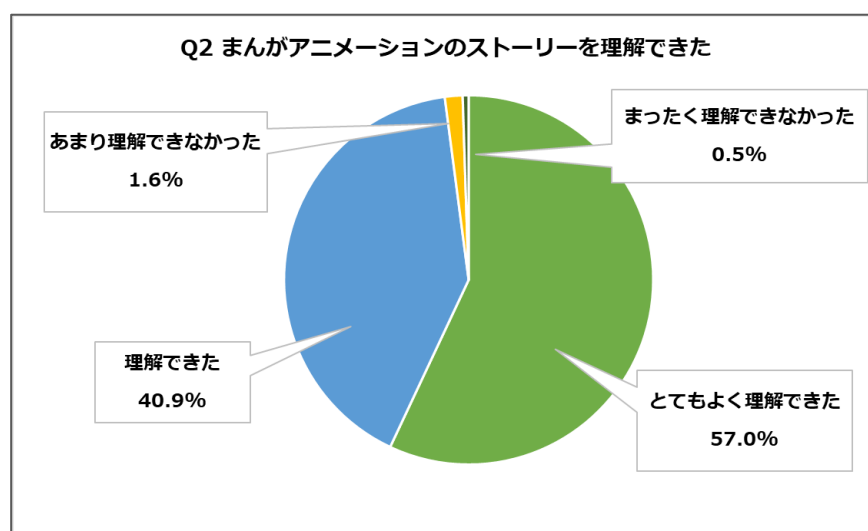
Q1 この授業はためになった



「とてもそう思う」「そう思う」を合計すると 93.3%に達し、93.3%の生徒が「ためになった」と回答している。

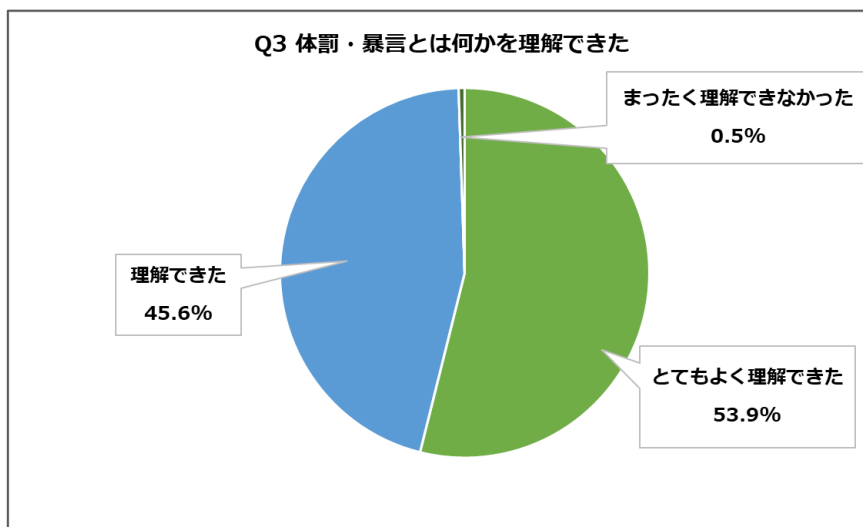
2. 理解度

Q2 まんがアニメーションのストーリーを理解できた



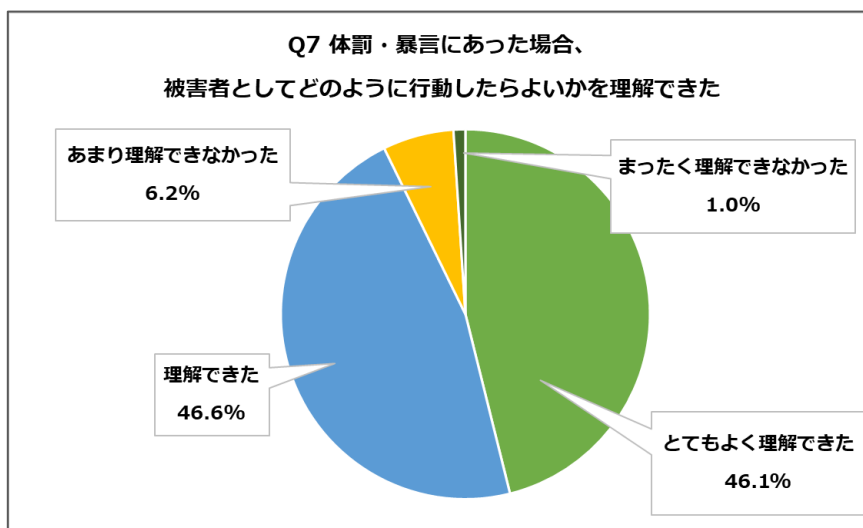
「とてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、97.9%の生徒が「まんがアニメーションのストーリーを理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が4名(2.1%)いた。

Q3 体罰・暴言とは何かを理解できた



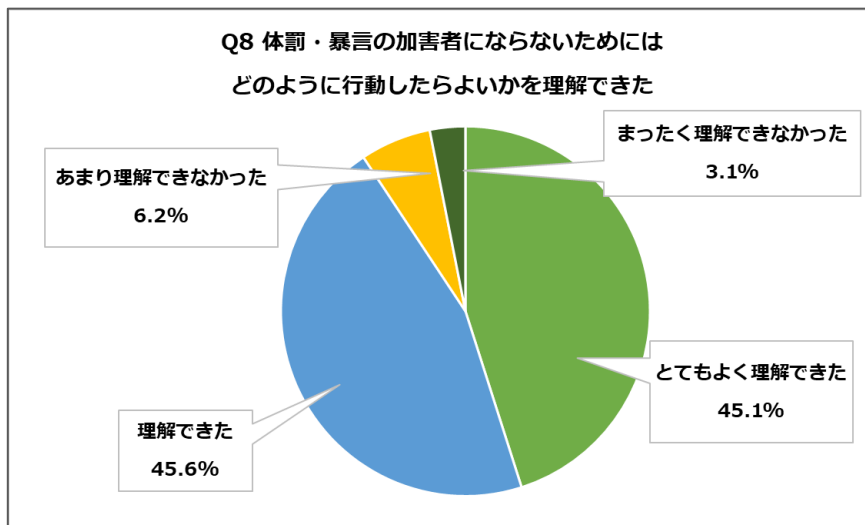
「ととてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、99.5%の生徒が「体罰・暴言とは何かを理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」と回答した生徒が1名(0.5%)いた。

Q7 体罰・暴言にあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた



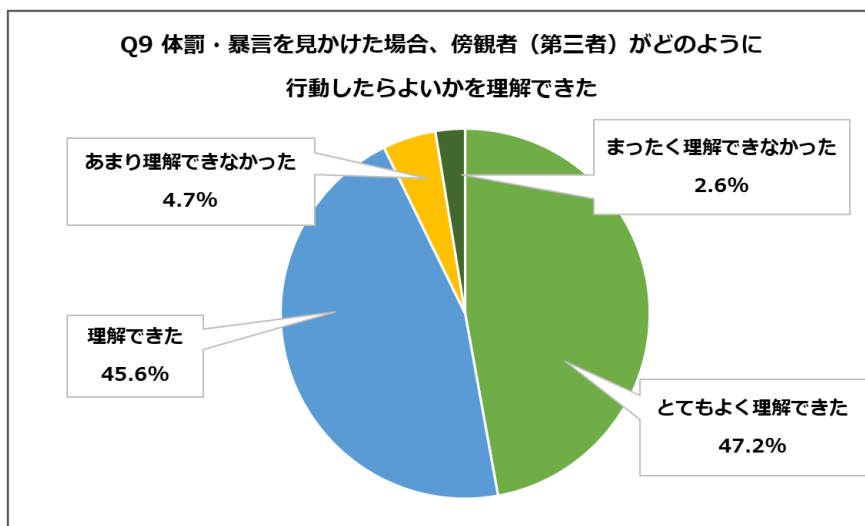
「ととてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、92.7%の生徒が「体罰・暴言にあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が14名(7.2%)いた。

Q8 体罰・暴言の加害者にならないためにはどのように行動したらよいかを理解できた



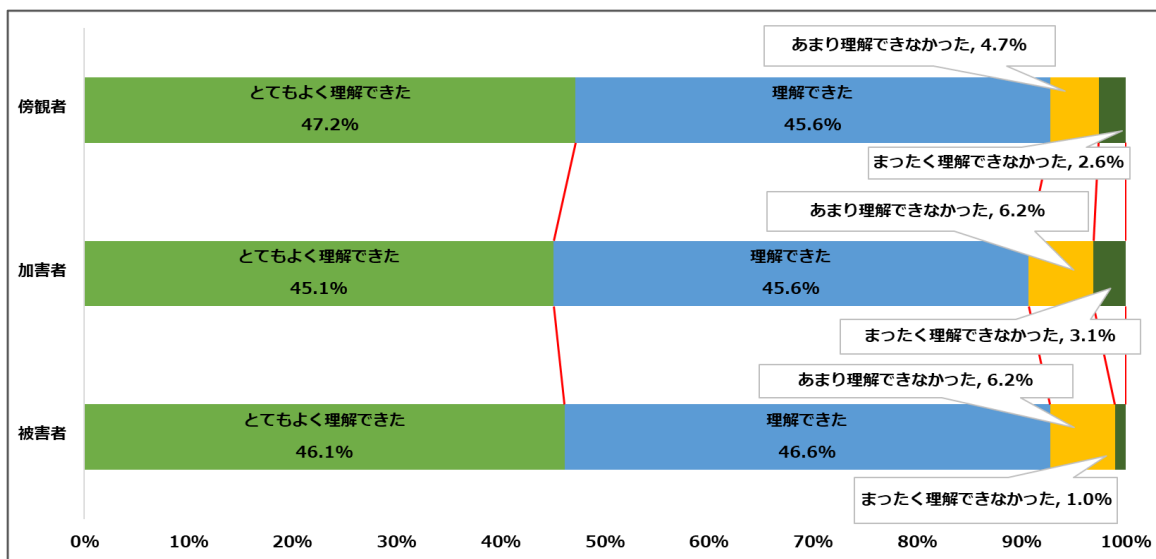
「ととてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、88.8%の生徒が「体罰・暴言の加害者にならないためにはどのように行動したらよいかを理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が 18 名 (11.3%) いた。やや理解度が低い。

Q9 体罰・暴言を見かけた場合、傍観者(第三者)がどのように行動したらよいかを理解できた



「ととてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、92.8%の生徒が「体罰・暴言を見かけた場合、傍観者(第三者)がどのように行動したらよいかを理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が 14 名 (7.3%) いた。

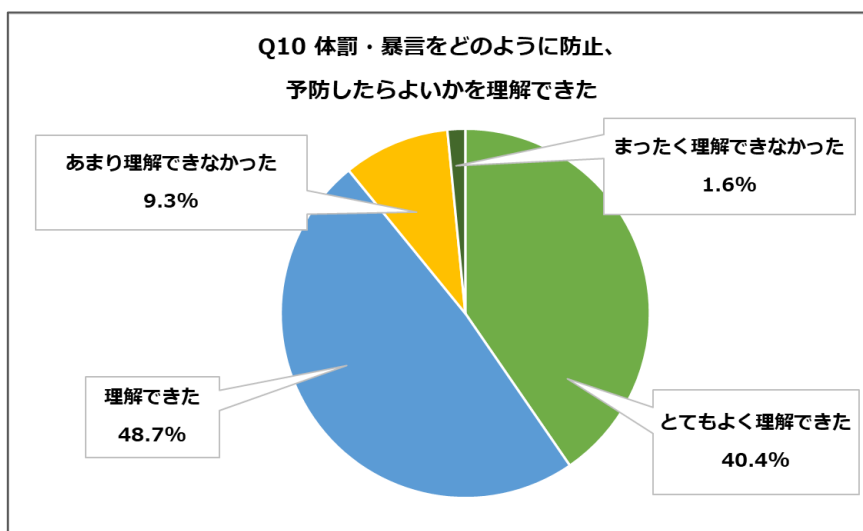
3つの立場になったときどのような行動をとったらよいかについての理解度の比較



- ・被害者としてどのような行動をとったらよいかについての理解度 92.7%
- ・加害者にならないためにどのような行動をとったらよいかについての理解度 88.8%
- ・傍観者としてどのように行動したらよいかについての理解度 92.8%

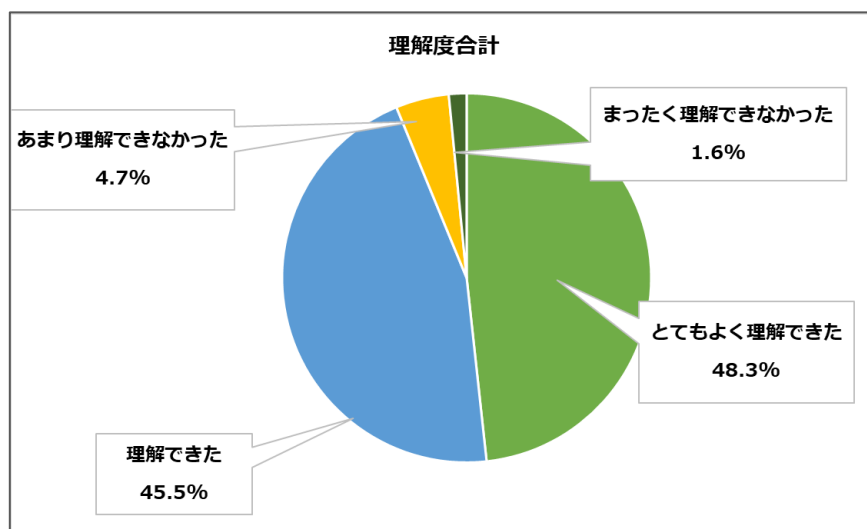
加害者にならないための行動についての理解が、やや低い。

Q10 体罰・暴言をどのように防止、予防したらよいかを理解できた



「とてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、89.1%の生徒が「体罰・暴言をどのように防止、予防したらよいかを理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が21名(10.9%)いた。理解度がやや低い。

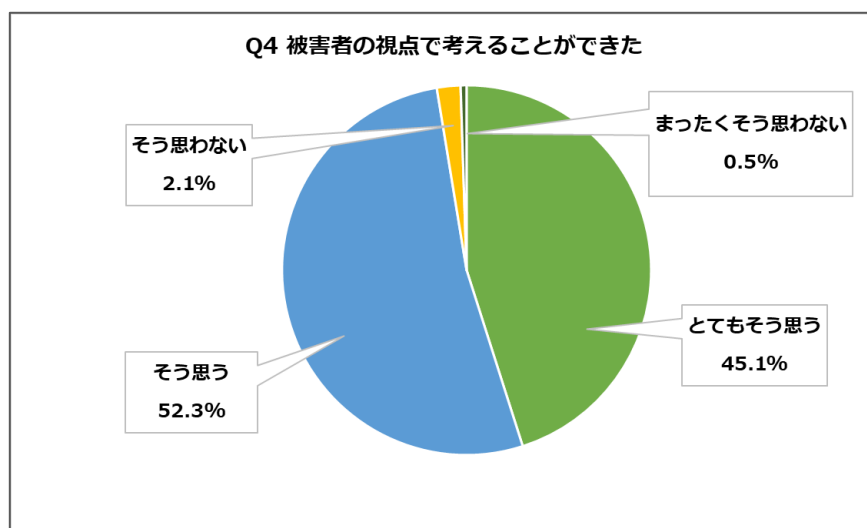
理解度合計(Q2、Q3、Q7、Q8、Q9、Q10の合計)



「ととてもよく理解できた」「理解できた」を合計すると、93.8%の生徒が「理解できた」と回答している。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒が72名(6.3%)いた。

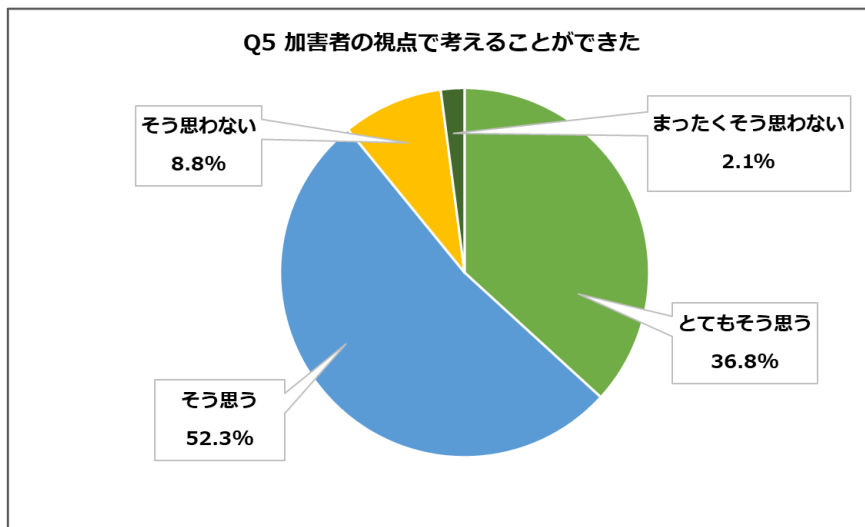
3. 意識変容につながる要素

Q4 被害者の視点で考えることができた



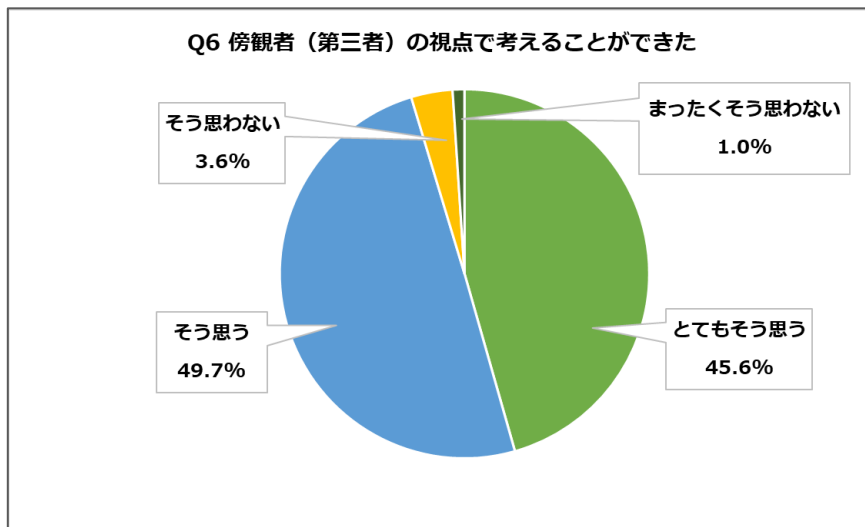
「とてもそう思う」「そう思う」を合計すると、97.4%の生徒が「被害者の視点で考えることができた」と回答している。一方、「被害者の視点で考えることができない」と回答した生徒が5名(2.6%)いる。

Q5 加害者の視点で考えることができた



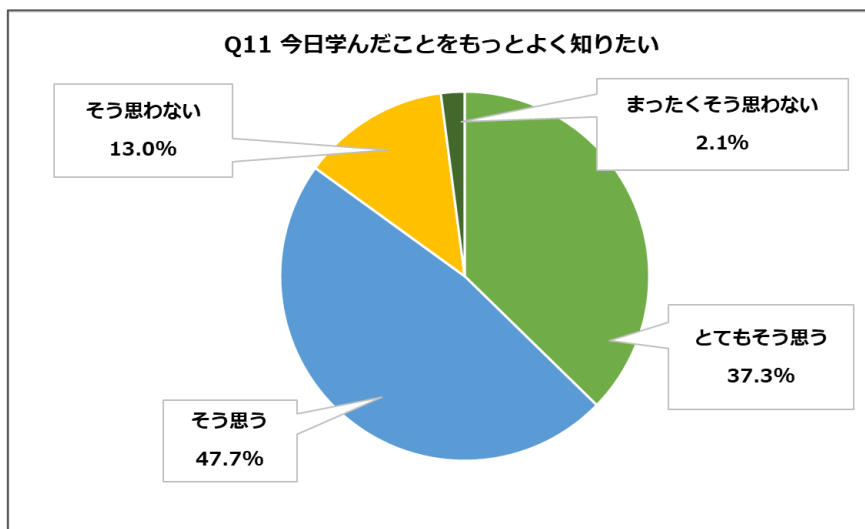
「とてもそう思う」「そう思う」を合計すると、89.1%の生徒が「加害者の視点で考えることができた」と回答している。一方、「加害者の視点で考えることができない」と回答した生徒が21名（10.9%）いる。体罰を加え、暴言を吐く加害者に共感できないことが示唆される。

Q6 傍観者（第三者）の視点で考えることができた



「とてもそう思う」「そう思う」を合計すると、95.3%の生徒が「傍観者の視点で考えることができた」と回答している。一方、「傍観者の視点で考えることができない」と回答した生徒が9名（4.6%）いる。

4. 意欲の向上

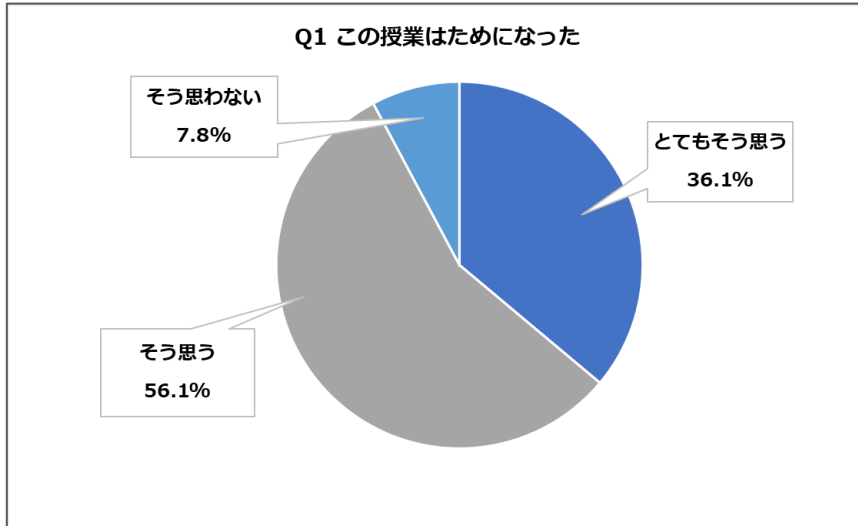


「とてもそう思う」「そう思う」を合計すると、85.0%の生徒が「今日学んだことをもっとよく知りたい」と回答している。一方、「傍観者の視点で考えることができない」と回答した生徒が29名（15.1%）いる。意欲の向上が、やや低い。

3.2.3 セクハラアンケート集計・分析結果

1. 満足度

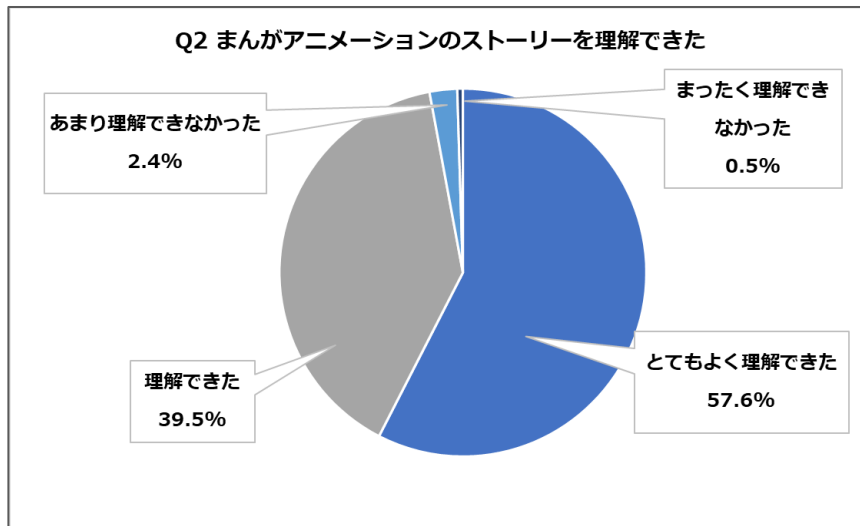
Q1 この授業はためになった



「とてもそう思う」「そう思う」を合計すると 92.2%に達し、92.2%の生徒が「ためになった」と回答している。一方、授業に満足していない生徒が 16 名（7.8%）いた。

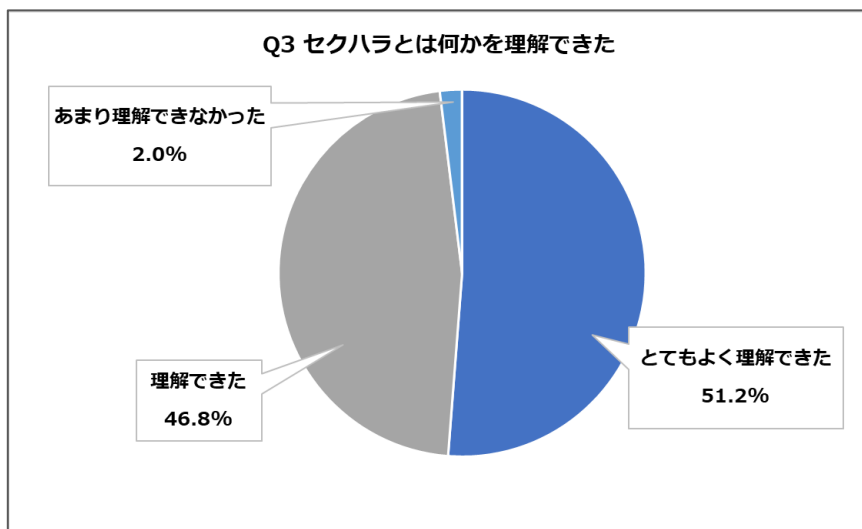
2. 理解度

Q2 まんがアニメーションのストーリーを理解できた



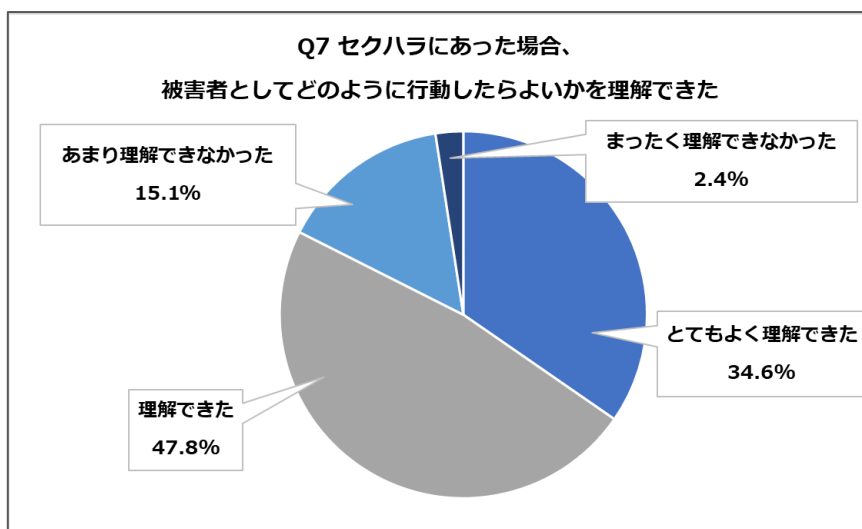
「とてもよく理解できた」「理解できた」を合わせると、97.1%の生徒が「まんがアニメーションのストーリーを理解できた」と回答している。一方、まんがアニメーションのストーリーを理解していない生徒が、6 名（2.9%）いた。

Q3 セクハラとは何かを理解できた



「とてもよく理解できた」「理解できた」を合わせると、98.0%の生徒が「セクハラとは何かを理解できた」と回答している。一方、セクハラとは何かを理解できなかった生徒が、4名（2.0%）いた。

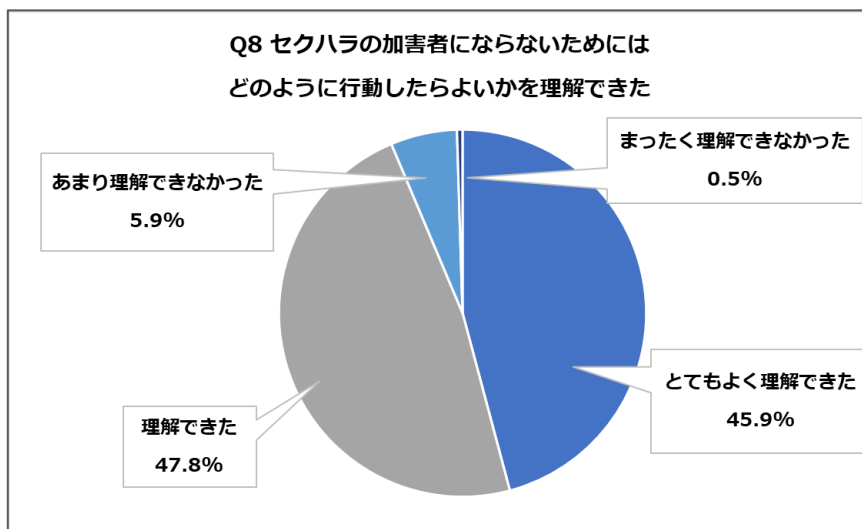
Q7 セクハラにあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた



「とてもよく理解できた」「理解できた」を合わせると、82.4%の生徒が「セクハラにあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた」と回答している。

一方、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できなかった生徒は36名(17.5%)いた。理解度はやや低く、実際にセクハラ被害にあったとき、どのような行動をとったらよいかについて、十分に理解できていない。

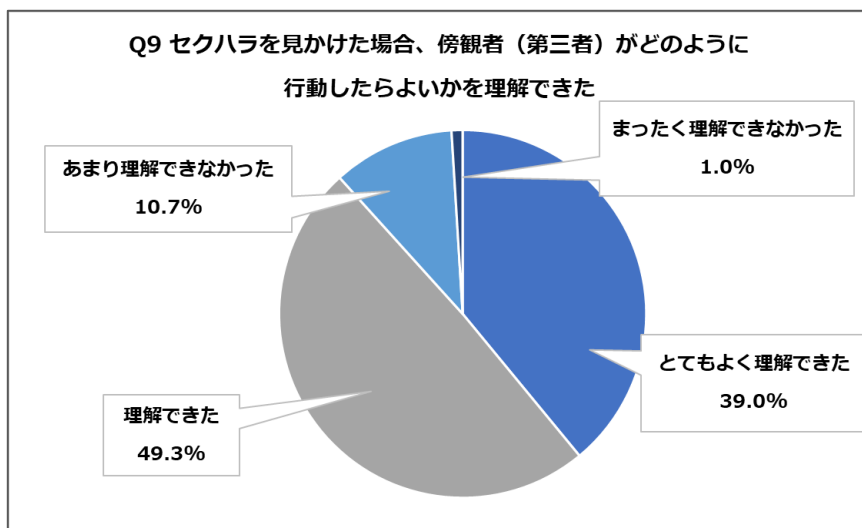
Q8 セクハラに加害者にならないためにはどのように行動したらよいかを理解できた



「とてよく理解できた」「理解できた」を合わせると、93.7%の生徒が「セクハラにあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた」と回答している。

一方、セクハラに加害者にならないためにはどのように行動したらよいかを理解できなかった生徒は13名(6.4%)いた。

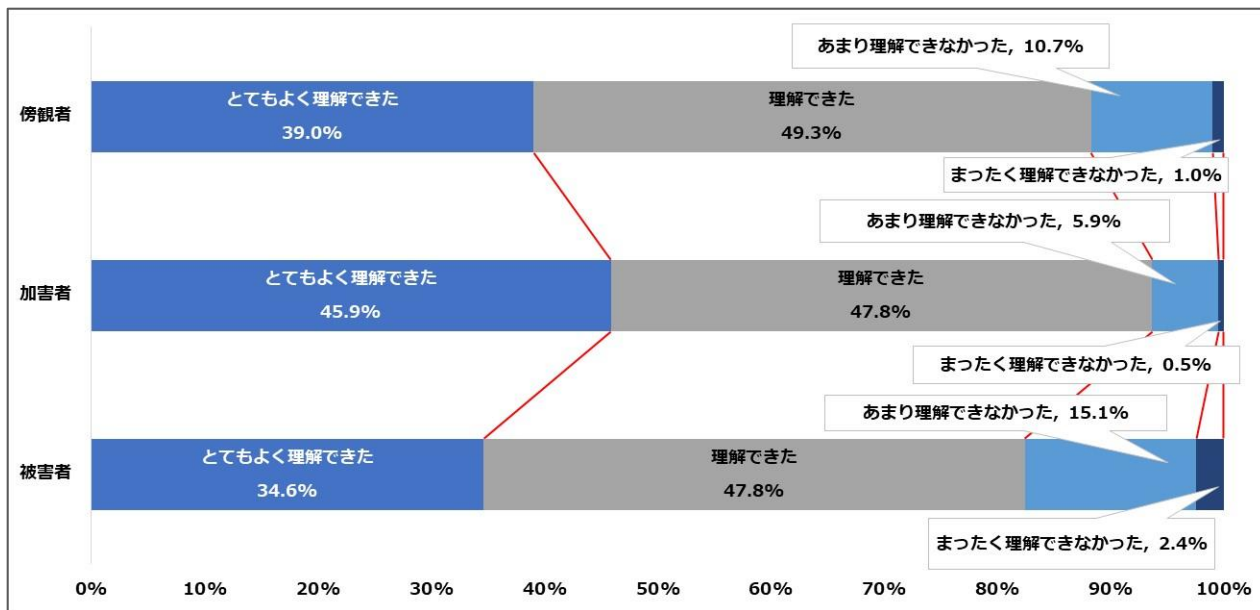
Q9 セクハラを見かけた場合、傍観者(第三者)がどのように行動したらよいかを理解できた



「とてよく理解できた」「理解できた」を合わせると、88.3%の生徒が「セクハラにあった場合、被害者としてどのように行動したらよいかを理解できた」と回答している。理解度は、やや低い。

一方、セクハラを見かけた場合、傍観者がどのように行動したらよいかを理解できなかった生徒は24名(11.7%)いた。被害者の周りにいる第三者がセクハラの場合に直面とき、傍観せずどのように行動するかについて、十分理解できていない。

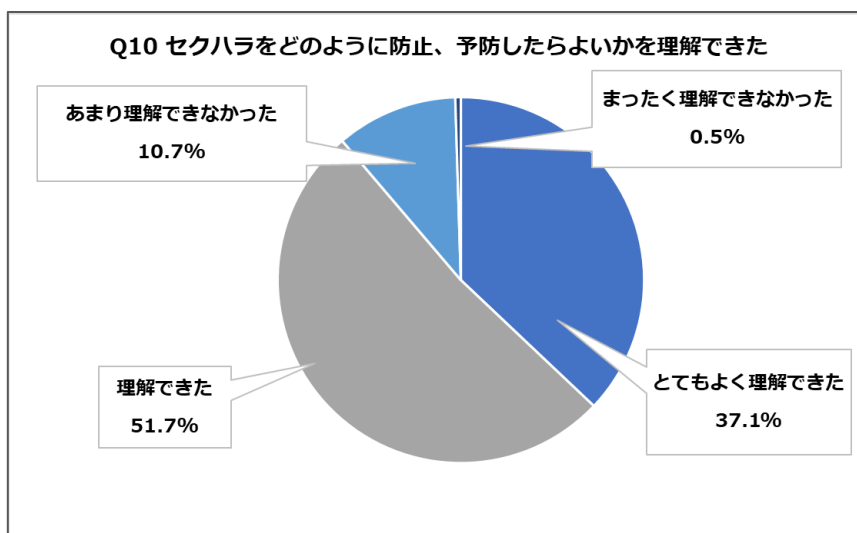
3つの立場になったときどのような行動をとったらよいかについての理解度の比較



- ・被害者としてどのような行動をとったらよいかについての理解度 82.4%
- ・加害者にならないための行動についての理解度は高かったが、被害者や傍観者としてどのような行動をとったらよいかについては、十分理解するに至っていない現状が示唆される。
- ・傍観者としてどのように行動したらよいかについての理解度 88.3%

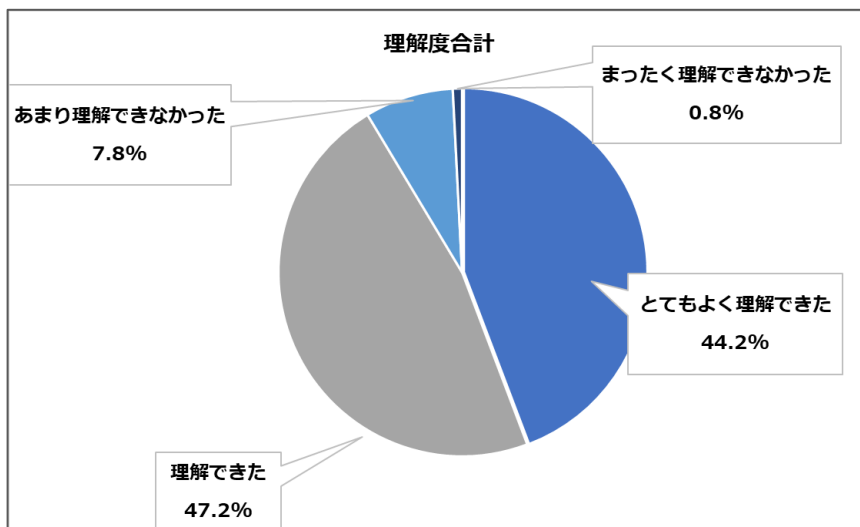
上記の数字から、加害者にならないための行動についての理解度は高かったが、被害者や傍観者としてどのような行動をとったらよいかについては、十分理解するに至っていない現状が示唆される。

Q10 セクハラをどのように防止、予防したらよいかを理解できた



「とてもよく理解できた」「理解できた」を合わせると、88.8%の生徒が「セクハラをどのように防止、予防したらよいかを理解できた」と回答している。理解度は、やや低い。一方、「まったく理解できなかった」「あまり理解できなかった」と回答した生徒は23名(11.2%)いた。セクハラ防止、予防する方法について十分理解できていないため、継続して生徒に教育する必要があると思われる。

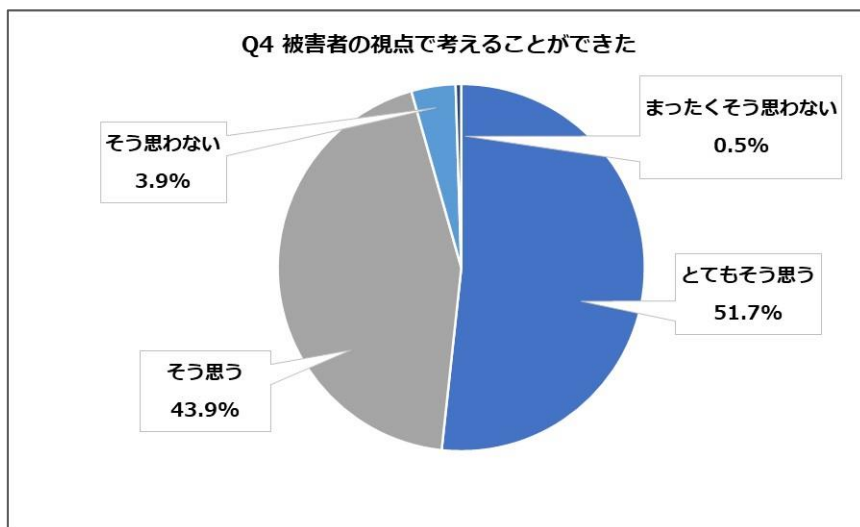
理解度合計



「とてもよく理解できた」「理解できた」を合わせると、91.4%の生徒が、実証授業の内容を理解している。一方、理解できなかった生徒は、106名（8.6%）いた。

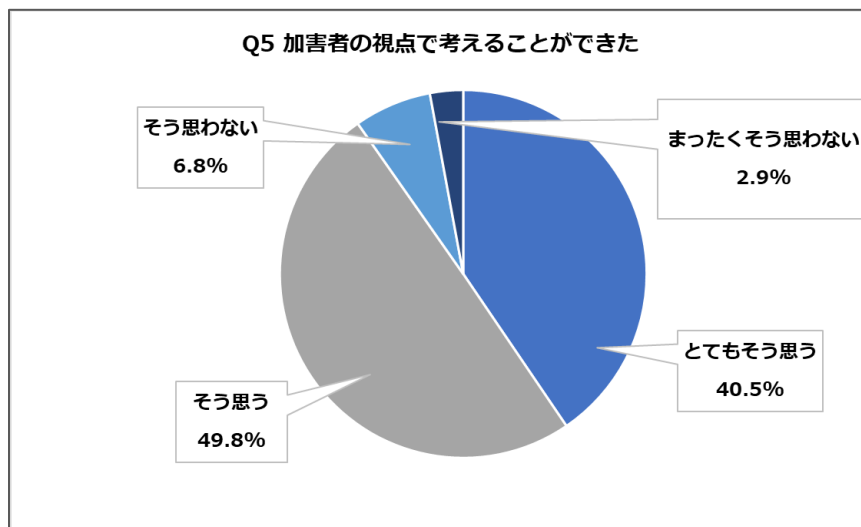
3. 意識変容につながる要素

Q4 被害者の視点で考えることができた



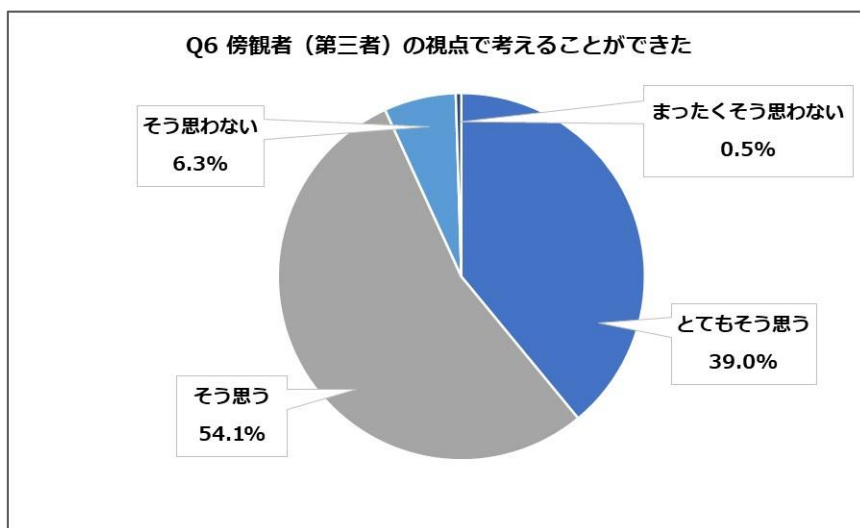
「とてもそう思う」「そう思う」を合わせると、95.6%の生徒が「被害者の視点で考えることができた」と回答している。一方、「被害者の視点で考えることができなかった」と回答している生徒が、10名（4.4%）いた。

Q5 加害者の視点で考えることができた



「とてもそう思う」「そう思う」を合わせると、90.3%の生徒が「加害者の視点で考えることができた」と回答している。一方、「加害者の視点で考えることができなかった」と回答している生徒が、20名（9.7%）いた。

Q6 傍観者（第三者）の視点で考えることができた



「とてもそう思う」「そう思う」を合わせると、93.1%の生徒が「傍観者の視点で考えることができた」と回答している。一方、「傍観者の視点で考えることができなかった」と回答している生徒が、14名（6.8%）いた。

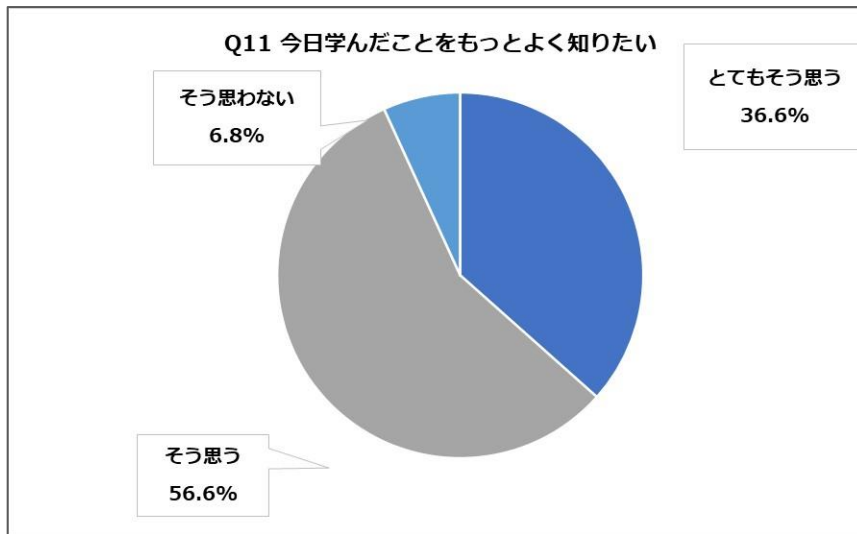
3つの視点の比較

- ・被害者の視点で考えることができた 95.6%
- ・加害者の視点で考えることができた 90.3%
- ・傍観者の視点で考えることができた 93.1%

3つの視点の中では、加害者の視点で考えることができたと回答した生徒が一番少ない。この数字から、セクハラに加害者に共感しづらいことが示唆される。

4. 意欲の向上

Q11 今日学んだことをもっとよく知りたい

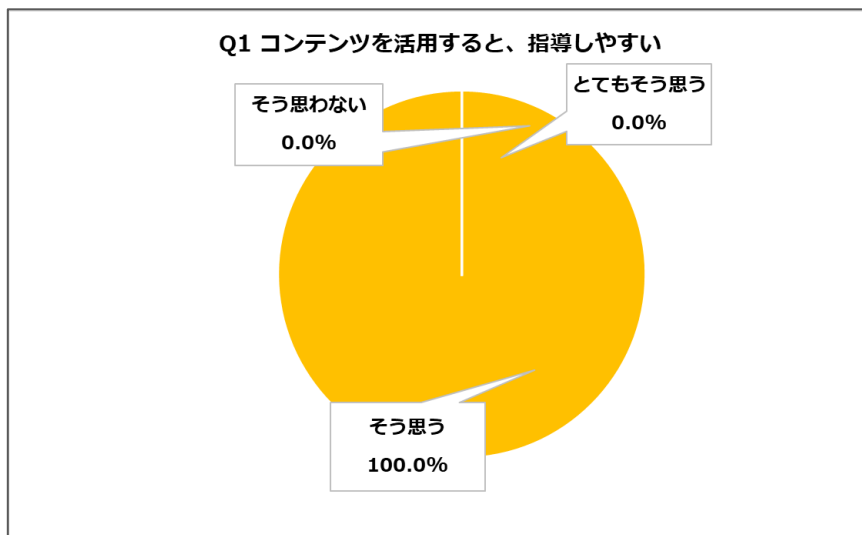


「今日学んだことをもっとよく知りたい」生徒は、93.2%である。一方「知りたいと思わない」生徒は、14名（6.8%）いる。

3.3 教員向けアンケートの集計・分析結果

5名の教員から回答を得た。

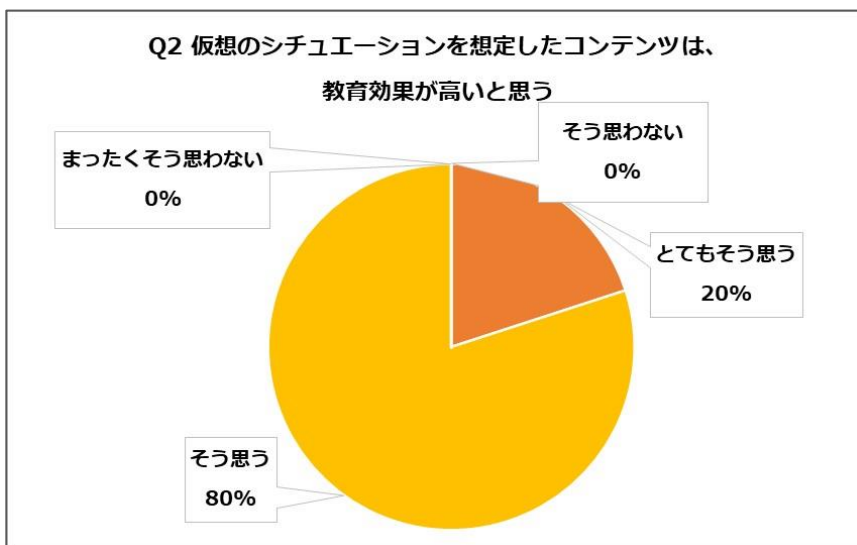
Q1 まんがアニメーションのようなコンテンツを活用すると、指導しやすい



全員が「そう思う」と回答している。

実際、導入部においてまんがアニメーションを提示し、生徒にハラスメントについての関心を引き付けることができた。

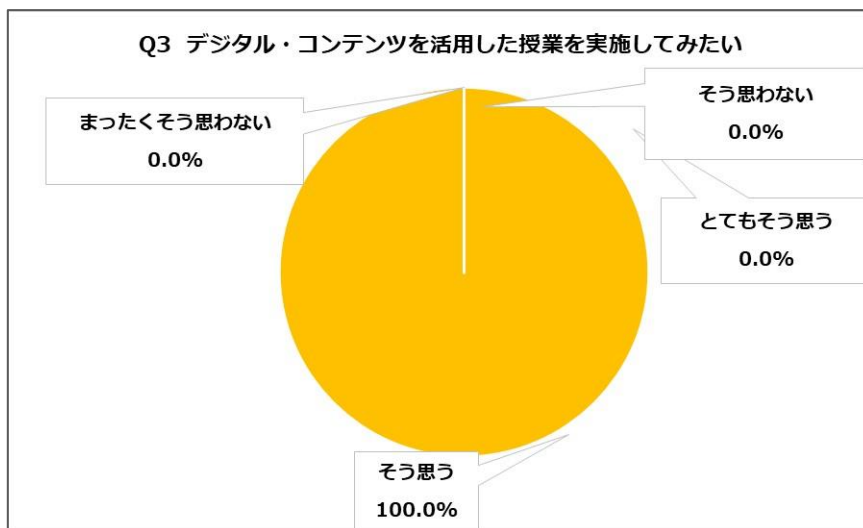
Q2 仮想のシチュエーションを想定したコンテンツは、教育効果が高いと思う



全員が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。

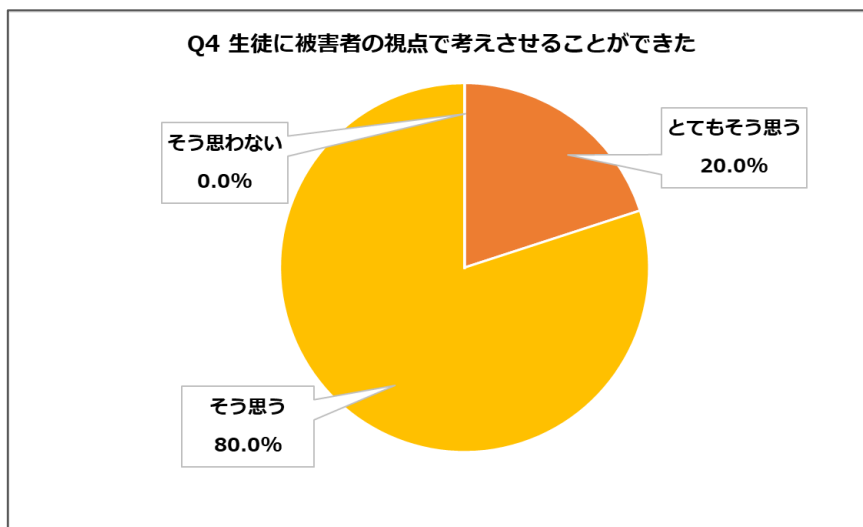
実際、ハラスメントが起こるシチュエーションを提示することにより、生徒が自分事として真剣に考えるきっかけとなった。

Q3 これからもこのような仮想現実のストーリーのデジタル・コンテンツを活用した授業を実施してみたい



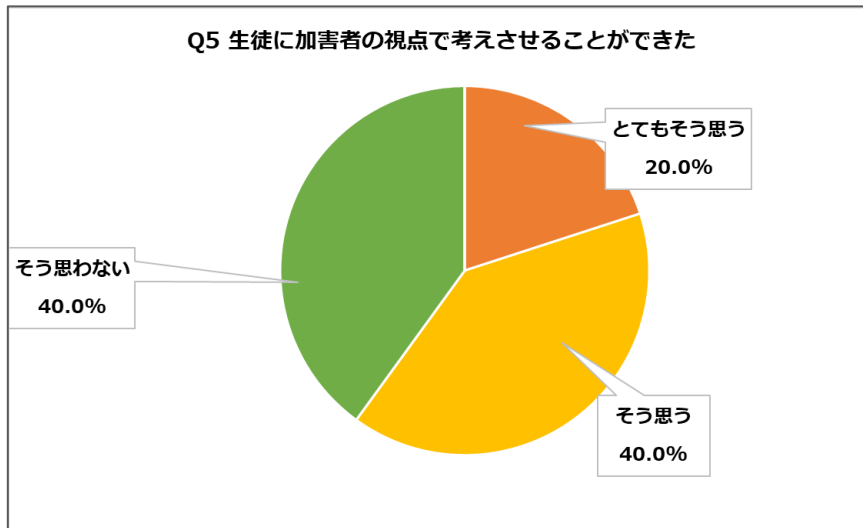
全員が「そう思う」と回答している。

Q4 生徒に被害者の視点で考えさせることができた



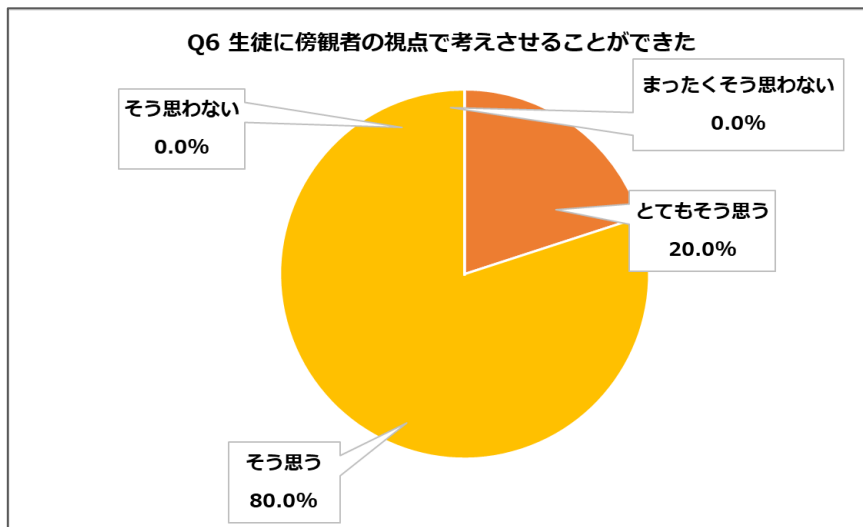
全員が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。

Q5 生徒に加害者の視点で考えさせることができた



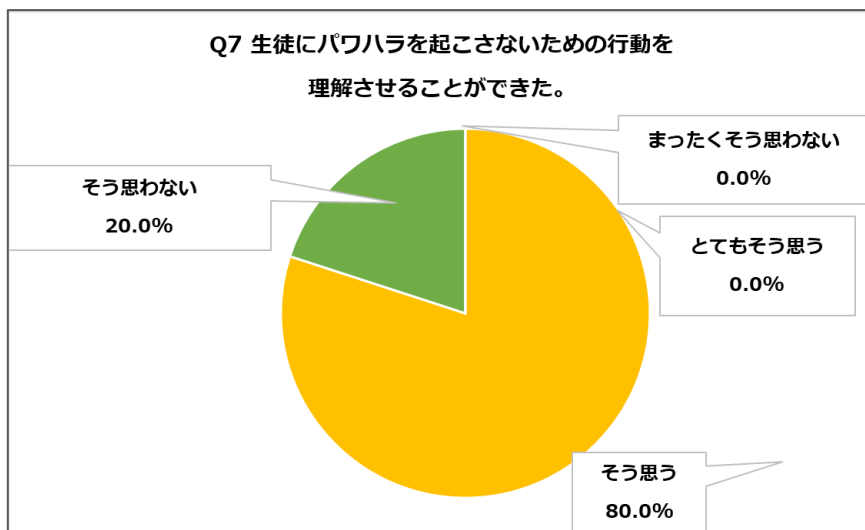
3名の教員（60%）が、「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。一方、2名の教員（40%）が、「そう思わない」と回答している。

Q6 生徒に傍観者の視点で考えさせることができた



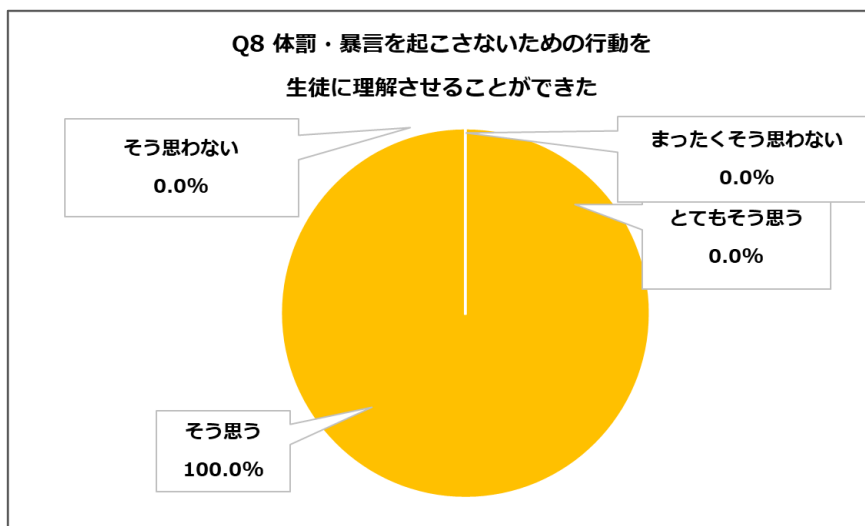
全員が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。

Q7 生徒にパワー・ハラスメントを起こさないようにどのように行動したらよいかを理解させることができた



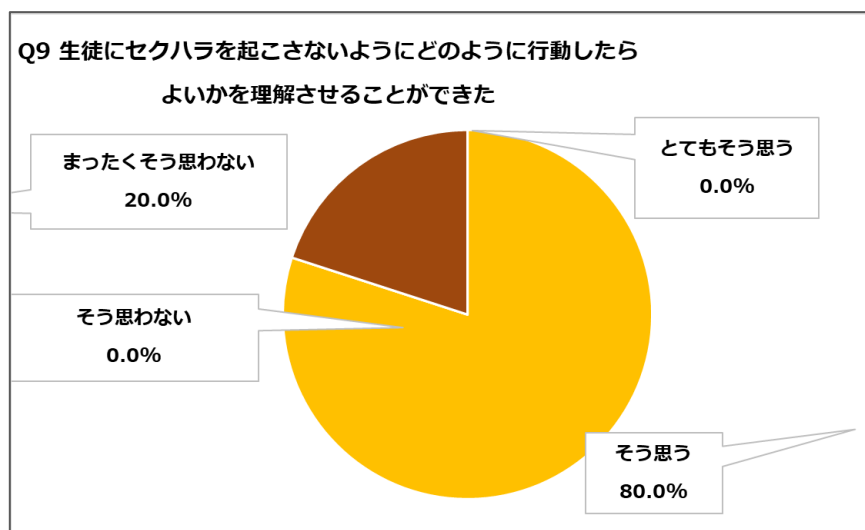
4名の教員（80%）が、「そう思う」と回答している。一方、1名の教員（20%）が、「そう思わない」と回答している。

Q8 生徒に体罰・暴言を起こさないようにどのように行動したらよいかを理解させることができた



全員が「そう思う」と回答している。

Q9 生徒にセクハラを起こさないようにどのように行動したらよいかを理解させる
ことができた



4名の教員（80%）が、「そう思う」と回答している。一方、1名の教員（20%）が、「まったくそう思わない」と回答している。

第4章 参考資料

4.1 パワーハラスメントについての自由回答

Q12 授業についての感想を自由にご記入ください

- ・ DeAL 教室を活用して意見交換を行うというのが最先端な感じも面白かったです。
- ・改めてコンプライアンスについて理解を深めることができ、とても良い経験になった。
- ・グループで話し合いながらパワーハラスメントについて考えたので理解しやすかった。
- ・パワハラとは何かは普通勉強しないが勉強してよく分かってよかった。
- ・普通にパワハラしてる人はいやがらせだけなのかなって思ってたけど全然そんなことなくて間違った善意ってだけで視点が変わった。
- ・まんがを観ることによって、被害者、加害者、傍観者の3つの視点から物事を知ることができてそれぞれの考えていることが相手にきちんと言葉で伝えていないため、このような問題が発生してしまったのだと思う。加害者は悪気があって言っていることでなくても、相手のことを思って行動していると伝えなければハラスメントにつながってしまうと感じた。
- ・班の人たちで意見を交換しながら考えるのが楽しかったです。自分がもしかしたら被害者や加害者、傍観者になるかもしれないなかでどのように対処すれば良いのかよく分かりました。もっと予防策についても考えたいと思いました。
- ・パワハラという言葉は知っていたけれど、今回の物語を見て、パワーハラスメントとはこのようなものだという具体的な例を知ることができて、ハラスメントはとても難しい問題であることに気付きました。自分が気にも留めないようなことでも、他の人だと傷ついてしまうことだってあるかもしれません。しかし、ハラスメントになっていないかを気にしすぎてしまうと、何も言葉を発せなくなってしまうとおもいました。
- ・スポーツは、みんなで楽しく他人を思いやりながら成長していくものだと思う。だから、キャプテンのようにパワハラをしていては、みんなで協力するプレーが上手くできないと思う。私が所属するテニス部では、先輩と後輩の仲も良く、協力し合って活動している。パワハラをする先輩がいなくてよかったと思った。
- ・漫画アニメーションで身近な事の話で説明されていてわかりやすかったです。
- ・パワハラをしている人は悪気はなくてもしてしまうことがわかった。
- ・覚がなくてもパワハラになるので気をつけたい。
- ・パワーハラスメントはしているつもりがなくてあいてが受けていると思ってしまうときがあるから相手の立場にたって行動や言葉を出したほうが良い。
- ・新聞などではよく見かける「パワーハラスメント」をアニメーションを通じて身近に感じ、「パワーハラスメントを受けたらどうすればよいか」、「パワーハラスメントを起こさないためにはどうすればよいか」などを学ぶことができた。またパワーハラスメント以外の様々なハラスメントも知ることができたので良かったと思う。
- ・加害者側にもそれぞれの考えがあるというのを班の中で話し合うことで理解できました。被害者だけでなく目線で物事を考えるのも大切なことだと思いました。
- ・加害者の気持ちも被害者の気持ちもよく分かり自分も共感できることがたくさんありました。パワハラを受けて苦しんでいる人がいると分かり、自分が傍観者だった場合は、見てみぬふりせずに被害者にちゃんと寄り添いたいと思いました。
- ・授業の進め方や漫画のセリフが分かりやすく授業に集中できた。
- ・漫画アニメーションに対して3つの視点からだれが何をすべきだったのかを議論した

のが面白かったです。

- ・他の班の人と意見交換すると、「あっ、そういう考え方もあるんだ！」という気づきが多かったです。また、はじめは二年生のキャプテンひどいな、と思っていたのですが、そのキャプテンは意地悪のつもりではなかったということを知って、伝えるって難しいなと思いました。
- ・まんががあってわかりやすかったです。
- ・こんな日常的な些細な出来事でもパワハラになる可能性があることに気付いた。
- ・机のスクリーンでの授業がやりやすかった。
- ・パワーハラスメントは加害者がわざとじゃなく、その人のためを思ってやっても、なってしまうことがあるので自分の生活を見直したい。
- ・これから後輩が入ってきて先輩になるので後輩に嫌われないようにするためのコミュニケーションの参考になったと思う。
- ・パワハラを受けている人への対応が学ぶことができてよかった。パワハラは仕事だけのことだと思っていたが身近な学校の部活でもパワハラがあることに驚いた。
- ・まんがアニメーションに出てきた3人がそれぞれ思っている気持ちが考えられたし、同じ人の気持ちを考えたとしてもグループごとに回答が異なっていて面白かったです。いつもは来ない大人の人もいたけれどディール教室にあるものを使ったり、違う人の意見を聞いて楽しかったです。
- ・フワッとしかわからなかったパワーハラスメントのことが深く知れてこれからの人生で役立ちそうだった。自分もこれから先輩になるので気をつけていきたい。
- ・わかりやすく、楽しかったです。
- ・キャプテンなどのある組織の上に立つというのは、責任をもってその組織を向上させる必要がある。そのため、仲間をまとめる必要があったりする。そこに威厳を使うのはいいが、ハラスメント的に用いるのは害を与えることになり損害となるため良くないと学んだ。自分も高学年になったので上に立つ機会が出てくると思う。そのため、威厳の使い方に気を付けパワー・ハラスメントに繋がらないように意識したいと思う。
- ・感動した。
- ・ボードなどを使って自分たちの考えを確認できたので理解が深まりました。
- ・漫画のおかげでハラスメントについてスムーズに理解することができてよかった。
- ・たのしかったです。
- ・三つのグループに分かれて、加害者・被害者・傍観者の三人の視点の考えを共有できて、パワーハラスメントについて深く考えることができました。また、自分がこの三人のどの立場になったらどのような行動をすればいいか分かりました。
- ・マンガアニメーションで多側面から事態の様子を見ることができたのがよかったです。
- ・加害者には加害者なりの考えがあり、それが皆のためになると思って行動をしていたことが結果的に相手に嫌な思いをさせているのだなと思った。
- ・授業内でパワハラ例がたくさん挙げられていたので、イメージしやすかった。
- ・便利な機械でみんなの考えがわかりやすくなって良かった。
- ・パワーハラスメントという言葉は聞いたことはあったけれど、意味を理解していない部分もあったけれど、どういうものか確認できて良かった！
- ・漫画のストーリーがわかりやすく、内容が入ってきやすかった。班で出た意見を黒板に張り出して共有することで、様々な考えを知ることができてよかった。
- ・重くなりすぎず、比較的楽しみながら授業に取り組めたと思う。
- ・自分にはない考えをしている人がたくさんいて、考え方は十人十色だなと思った。
- ・被害者が他の人に相談できなくても、傍観者が大人に相談してあげてもいいのかなと

思った。

- ・同じ班の人たちと話し合ったり付箋にまとめたりすることで自分の考えを整理してまとめることができました。
- ・被害者に感情移入してしまって、冷静に考えられないところもあったが、いろいろな視点からパワハラについて学ぶことができた。
- ・自分や身近な人には、そんなことはおこらないという可能性はないので、この授業で学んだことを生かしていこうと思う。
- ・パワハラは怖いなと思いました。怖がらずに注意し、少しでも被害者を無くす努力をしたいです。
- ・今回の授業ではスポーツ・コンプライアンスについて詳しく知ることができた。今までは加害者が悪いものとして思い込んでいたが、こうやっていろいろな視点から見ると傍観者も少し悪気があると感じた。
この様な事例を見て実際にどういうことが起こっているのか現実的に考えることができ、実感が湧いたと思う。
- ・ハラスメントは自分が知っているよりも多様化していて、「ハラハラ」というものが存在することが印象に残りました。
- ・アニメ形式で、例が具体的で頭に入りやすかった。
- ・パワハラについてよく理解できた。
- ・正直自分の性格のせいなのですが、うまく漫画の登場人物に感情移入できなくて、どうして？と思うことが多かったです。でも私も部活でたくさんの後輩を抱える立場なので、大好きな後輩たちを傷つけぬようにきちんとパワハラを予防をしないとと思いました。

Q13 まんがアニメーションの感想を自由にご記入ください

- ・ハラスメントについて、実際の例としてアニメーションを見るというのがとても分かりやすく良いと思いました。
- ・見やすくとても理解しやすかった。
- ・たとえがわかりやすくよかった。
- ・それぞれの視点で作られていて考えが膨らんだ。
- ・キャプテンとは生まれた年一年しか変わらないのに何でそんな嫌味みたいなこと言われなきゃいけないのかなって最初は思ったけど根はいい人だったから気持ちがすれ違っちゃって悲しかった。
- ・それぞれの視点で物語が描かれていて、とてもわかりやすかった。
- ・面白かったです。颯太くんはなぜ保健室に行かなかったのか不思議に思いました。
- ・パワーハラスメントにという難しい問題を、良くありそうな具体例で分かりやすく紹介されていて、素晴らしいなと思いました。
- ・ボイス付きだったので、画面の文字が見え辛くても理解することが出来た。また、登場人物の気持ちがよく表現されていたので、それぞれの心情がとてもよく理解できた。
- ・部活での先輩後輩間でのトラブルというのは多くあると思うし、とても分かりやすい例だったと思います。そのおかげで想像もしやすかったし、ハラスメントについても理解できました。
- ・声もついてて見やすかった。
- ・身近なところで起こりうるのでわかりやすかった。
- ・「中学1年生」、「部活」というとても身近に感じるテーマで切り込んでいて、話に入り

やすかった。今自分が入っている部活でこういうことがあったらどうしたら良いか以外にも、将来職場に就職したあとこのようなことが起こったらどうすれば良いかなどいろんな想像をすることができた。

- ・最初に僕がカワイソウ…と思いました。その後に見た動画で僕の友人の気持ちがよくわかり、もしも自分だったらと考えやすかったです。
- ・絵が遠い位置でも見えるほど大きくてよかった。
- ・3つの視点から描かれていてとても分かりやすかったです。漫画だったので普通のアニメーションよりもよりセリフが分かりやすかったです。
- ・凄くわかりやすく聞きやすかったし、物語自体が面白くてその分「この人はどんな気持ちなのかな？」と沢山考えました。また、三人からの視点で書かれているものわかりやすく、予想外の展開もありました。
- ・3つの視点で書かれていたのでそれぞれの気持ちがわかりやすかった。
- ・まんがアニメーションのパワハラはひどいと思ったが、これよりもひどいものがあると思うと、「ゆうと」の気持ちもわかるので、被害者も自分で第三者に相談したりすることが大切だと思った。
- ・マンガを読むのではなくアニメーションで音声がついていたのでどのような口調でしゃべっているか分かりやすかった。
- ・被害者、加害者、傍観者の3つの視点で1つの物語をそれぞれの気持ちが読み取れました。最初は加害者のキャプテンはただ、厳しくしているだけだと思っていたけれど、3人それぞれ考えている事があり、班の人と考えたり違う班の考えを聞いたのが楽しかったです。
- ・声もついていて目が悪くて少し文字が見にくくても何を言っているか理解できた。
- ・わかりやすくできていたので、聞いていて理解しやすかった。
- ・段階ごとのムービーで徐々に登場人物が考えていることがわかってきたのが面白かったです。
- ・心の中で思っているところまであってキャラクターの心情などが読み解きやすかった。
- ・漫画にもボイスがついていたので、キャラの心情の理解がしやすかったです。
- ・神作画でとても興奮した。よく作りこまれておりとても感情移入できた。
- ・みやすいし、分かりやすかった。
- ・文章で説明するより絵・吹き出し・声があったほうがイメージがわきやすくとても良かったです。
- ・出来が凄い。
- ・良かった、高校生を対象にしているならば漫画の進みをもう少し速くしてもいいのではないかと思った。
- ・絵や声が入っていたことで文章だけよりも感情移入できた。
- ・キャプテンの眉毛の形がちょっと気になりました。目の配置場所が気になりました。
- ・人物の表情が大きく描かれていて見やすかったのと、くすつとなってしまうところがあってか集中してみる事ができた。
- ・いろんな立場の人がみんな違うことを考えているから、故意の行動ではなくても誰かが悲しい思いをしているかもしれないと考えるととても怖いなと思った。自分も誰かとトラブルにならないように一つひとつの言動に気を付けたいと思う。また、客観的な視点で物事を見るというのは面白いなと感じた。
- ・自分のしていることは正しいと思い込んではいけないと思った。
- ・絵や音声のおかげで実際二どのような状況で起きてしまうのか簡単に想像することができたと思います。

- ・ストーリー性があってわかりやすかった。あきらめてしまっている部員のイラストの目に光がなかったり、コーチの表情が変化していったりするのも一目で感情がわかりやすかった。
- ・人の口で言ってもらいよりわかりやすかった。
- ・男の子が先輩に体調が悪いのに部活に来いと言われていて可愛そうだと思います。
- ・漫画、アニメには台詞だけではなく、それぞれの立場の心情も精密に書いてあったり、周りの状況や、被害者から見る加害者の圧力などもわかりやすく書かれていて、発見が多い様な物だった。
- ・展開が一辺倒で何回も授業を受けているうちに飽きた。
- ・見やすく分かりやすかった。
- ・イラストがいい感じだった。
- ・アニメーションで実際にはないだろうと思うことがあっても班の人と話してみると登場人物の心情が理解できると思いました。
- ・面白かった。
- ・ごめんなさい本当に論点が違うかと思われませんが、私が一番気になったのはキャプテンの行動で、なぜ部活動に力が入らない子を退部したいという本人の意思まで蹴っていさせ続けるのかということが分からなかったところです。部員がいなくて部員を一人でも確保したいということなら話は分かるのですが、野球部も演劇部もなんですけどとりあえず練習が一番大切で練習をしっかりとやらないと本番に支障が出るので練習に身が入っていない子はお断りだと思います。改善が見られないのでしたらなおさらです。なのでキャプテンにはパワハラするぐらいなら素直に退部してもらったほうが何かとよいのではとずっと考えていました。

Q14 この授業で学んだことをご記入ください。

- ・パワーハラスメントによって苦しんで、人生を終わらす人がいる現状と、加害者被害者、第三者の三つの視点から見て、それぞれの複雑な心情が分かった。
- ・パワーハラスメントの被害を受けている人がいたら、傍観者はその人を助けようと行動することが大切で、パワーハラスメントは、故意ではなく加害者になっている可能性もあるから、自分の行動を常に見直す必要がある。被害者、加害者、傍観者、それぞれが思いやりの心をもって行動しなければならない。
- ・今回の授業では、被害者、加害者、傍観者それぞれの視点で気持ちや内容を考えることができ、なぜこのようなことが起こってしまったのか、再発させないためにはどうした良いかを考え学ぶことが出来た。
- ・ハラスメントとは何か分かった。
- ・パワハラしてる人は悪気だけじゃなくて人とは異なる善意でパワハラになっちゃうことを言うんだとわかった。上司からの嫌がらせと上司からのパワハラは似てるようで違うんだということが分かった。年下から嫌がらせされることもパワハラになったりするのかなと疑問に思った。この前テレビ番組でハラハラというハラスメント(ハラスメントというハラスメント)を知ってすごい生きずらい世の中だなと思った。
- ・相手の気持ちを考えることと、自分の気持ちを伝えることが大切だと学んだ。もっとコミュニケーションの能力を高めたいと思う。
- ・パワーハラスメントの加害者となる人は必ずしも故意にやったわけではないこともあるということ。→やっているつもりがなくてもなってしまうかもしれない。
- ・パワハラ定義について。加害者の意識と被害者、傍観者の意識のちがいについて。

- ・ハラスメントとは、人への「いじめ」や「嫌がらせ」などの迷惑行為のこと。
- ・パワハラというのは、ハラスメントの 1 つで、パワーハラスメントの略語。人間関係の上下関係（学年の違い・職場の階級など）を背景として、自分より下級の人の体をそして心を傷つける行為。
- ・部活でのパワハラについて学び、来年度私は、初めての後輩がテニス部に入部して良かったと喜んでもらえるような先輩になりたいと思った。
- ・パワーハラスメントなどのハラスメントについて、それがどのようにして起こるのか、それぞれの立場から考えていったことで、被害者にも加害者にもただの何もしない傍観者にもならないようにするにははっきりと自分の考えを伝えることも大切だと感じました。
- ・パワハラを見てみぬふりをしないことの大切さを知りました。
- ・パワハラだけでなく他のハラスメントもいけないことだと思った。被害者にも加害者にもならないように気をつけたい。
- ・パワーハラスメントという問題が明らかになった場合、加害者が非難されたり揶揄されたりしがちだが、加害者側にも今回のアニメーションで出できた野球部のキャプテンのように考えていることがある。また考えていることがあってもパワーハラスメントは良くないことだが、被害者側にもやれることが色々あるなどのことを学んだ。
- ・ハラスメントとは様々なものがありそれは社会だけでなく学校でも起きてしまうことがある事が分かった。
- ・今までパワハラは上の立場の人がその立場を利用して悪意を持ってしていることだと思っていたが、今回の授業を受けて上の立場の人が悪意はなくても被害者がハラスメントだと感じたらハラスメントになるということが分かりました。
- ・私も気づかないところで誰かが傷つくようなことをしてしまっているのかも知れないし、私自身が見て見ぬ振りをしているかも知れないということが分かりました。だからこそ、相手がどう思うかを考えてから発言をしたりすることを大切にしていきたいです。
- ・パワハラはしている人（加害者）は気づきにくく、されている人（被害者）と第三者（傍観者）は他の人に言いにくいと学んだ。だから、傍観者が他の人に相談するか加害者に注意する。立場はによって行動が変わってしまうと思った。
- ・パワハラをしてしまう人の気持ちとされた人の気持ちがわかった。
- ・加害者の立場になる意識していないうちにパワハラをしている可能性があることが分かった。自分が加害者側にならないように意識したい。
- ・パワーハラスメント、ダメ！絶対！
- ・被害者は、行動することが大切だと思った。加害者は、故意であっても、なくてもパワハラになることがわかった。見ている人は、人任せにせずに自分が行動することで救われる人がいるということを知った。
- ・あまり行った事がないディール教室でスポーツハラスメントについて知れて勉強になりました。スポーツハラスメントは聞いた事がなかったけれどまんがアニメーションでどうゆう事なのかよく分かりました。被害者になった場合は周りの人に相談したりして一人で抱え込まない事が重要だと思いました。傍観者の人も友達がいつもと違うと感じたら話しかける事で被害者の人も少し楽になるのかなと考えました。スポーツハラスメントは被害者にも傍観者にも加害者にもなる可能性がある所以自分が思っていることを伝えたり、自分の意見が絶対合っていると思わないでこれから人とコミュニケーションをとっていききたいです。
- ・言ったことがきつくないか確認することでハラスメントを予防できる。

- ・パワーハラスメントのことや加害者、被害者、第三者の気持ちになり、それぞれがどのようにすればこのようなことが起きないかを学ぶことができた。
- ・1人で溜め込もうとしないことが大切（加害者も、被害者も）。
- ・ハラスメントというのは、嫌がらせや迷惑行為の事であり、それは行為者の故意の有無に関係なく、被害者に不利益をこうむり続ける行為の事だと学んだ。つまり、被害者がいやだと思ったらそれはハラスメントに値するということを知った。
- ・パワハラについて、わかりやすく楽しく学べました。
- ・ハラスメントはする側の故意の有無にかかわらずされる側がどのように感じるかによる。
- ・ハラスメントって怖い。
- ・最新技術を取り入れた授業は、班で考えたことを簡単に全体で共有出来てとても便利でした。パワーハラスメントについて自分がどのような対策ができるかを考えられました。
- ・自分も加害者にならないように上下関係が生まれやすい環境でもお互いに話し合う場を設けることが大切だなと思った。
- ・パワハラは意外と起こりやすい。
- ・相手のことを考えてるつもりでも知らないうちに傷つけてるかもしれないので気をつけなければいけないとわかった。
- ・一人一人に相手を思う気持ちがあるということ。
- ・パワハラは社会に出た時から関わってくるイメージがあったが、漫画で学校の部活であったように今から起こる可能性があることが分かった。
- ・自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちを知る。または、自分の気持ちを伝えることが大切だと感じた。また、パワハラを身近に感じられたので、私たちも被害者または加害者、第三者になる可能性があると感じた。
- ・パワハラは自分が考えているよりも簡単に起こってしまうもので、相手の気持ちをよく考えて行動したり、何か発言したりすべき。また、パワハラなどで困っている人はなかなか自分から話しにくいと思うからそういうことが自分から言い出しやすい環境を作ってあげるべきだと思った。
- ・パワハラと呼ばれるものは、悪意というよりもすれ違いによって生じている場合も多いこと。
- ・加害者は悪気があってパワハラをしているわけではない場合もある。
- ・私自身今はまだ一年生ということもあり加害者に回ることは少ないと思いますが、来年度、後輩ができたときにパワハラになるようなことをしないように気をつけるべきだと学びました。また、傍観者の立場になったとき先生に報告するなどのアクションを起こすことが大切になると思いました。
- ・パワハラは自分がしようと思っていなくても加害者になってしまう可能性があること。パワハラをされたと思ったら周りの人に相談すること。
- ・パワハラによる出来事について自分にできることなど。
- ・自分が知らないことでも周りでは起こっている可能性があるので気をつけたい。
- ・今回の授業で、個人個人にいろいろな人のことを思っていることがわかったり、加害者も実は優しさを持って接していたりすることもあると気づいた。このような事例に発展しないために、仮に私が先輩の様な立場だったら、自分の意見も含めて話し合っていきたいと思う。また、一方的に意見の結論を述べるのではなく、理由も伏せて話せる様にしたい。
- ・パワハラを防ぐには自分から気を遣って行動しないといけないと思いました。

- ・加害者に自覚がないことが多い。
- ・正直まだパワハラは「いったもん勝ち」だと思っているところもあります。ですが、みんなそれぞれ違う人なのでどのようなことをされたらいやなのかも違うと思います。そこをいかに考えるかを大事にすることで少しでもいろんなハラスメントの被害を減らすことができるのではないかなとも思います。

4.2 体罰・暴言についての自由回答

Q12 授業についての感想を自由にご記入ください

- ・面白かったですが、空間 UI の反応が遅かったり行き過ぎたりしてちょっと困りました。
- ・あまり DeAL 教室で授業することがないからペンをつかってやるのも慣れていないけど、紙でやるよりは早くできる。
- ・本当にありそうな 3 事例だったのでとてもためになった。
- ・よく理解出来て、楽しかった。
- ・コーチが怖かったです。強豪校のコーチはみんなあんな感じなんですか？
- ・体罰はやばい。傍観するだけでなくしっかり頼れる人に言うことが重要だと知った。
- ・当たり前だけど、自分が体罰や暴力を受けずに部活などの練習できていてよかったーと思った。また、自分が暴力を振るわれるのは、自分がうまくできないせいだという負い目を感じてしまって抱え込んでしまうのだと思い、悪いのは加害者だけど被害者側の思考も理解できてしまって、難しいなと感じた。
- ・先生側からこのような内容の授業をしてくれるのは信頼感があってよかった。
- ・漫画を使ったことでわかりやすかったです。
- ・体罰だめ！ 体罰したやつ四肢をもぎ取りたいぐらいだめです。
- ・こういうのは初めてだったので楽しかったです。
- ・わかりやすかった。
- ・授業の中であったペットボトルを投げる、などの行為だけでなく、言葉などの精神的な暴力も体罰になるのだな、と感じた。
- ・面白かったです。加害者にも気持ちがあって、きっとそれをうまく伝えられないのだろうなと思った。加害者が絶対悪くても、傍観者や被害者にもなにかできることがあって、それをしないともっと悪化してしまうのだろうなと思った。
- ・体罰は被害者のことを傷つけ、あってはならないことだと再認識した。また、加害者の視点の話を学び「ものはいいよう」というように生徒に寄り添うような言葉をかけること、「体罰」がどこからか？ということはこのような授業を通して学んでいくべきだと思った。体罰のような直接的な暴力でなくても言葉などの精神的な暴力もあり、それらを防ぐためにもきついことばかりを言うのではなく、相手を気遣っているのであればねぎらいの言葉をかけるべきだと思った。
- ・暴力はいけないなと思った。
- ・動画が分かりやすく面白かった。
- ・今までにない内容の授業でなかなか面白かった。小学校の頃を思い出した。これらはフィクションではなく実際に起っているのだと理解することが重要だと感じた。
- ・DeAL 教室での授業は、みんなの意見がちゃんと共有されるから、意見の共有の場にとってもいいと思った。
- ・体罰・暴言の問題のニュースは度々見かけるので今でもこんなことが行われているんだなと思って怖くなった。

- ・加害者側もその人のために思ってなどそのつもりではなくてもなりうることがあると思った。
- ・とても勉強になった。
- ・体罰に関して考えてみたとき、自分も昔入ってたサッカーチームで体罰に近いものがあったことを思いだした。自分のチームより強いチームに入っていた友達が、「怒ってるチームは強くなれない」と言っていた。自分のチームは都大会に出るレベルだったが、たしかにそこまでしか行けなかったと理解した。
- ・体罰もいじめも防ぐ防ぐといってもなくならないもんをどう対処するんですかね。全部ハッピーエンドで終わるわけでもないのに世の中ではそういう特集すると無事解決円満万歳の体験談しか出てこないそれで果たして何が学べるでしょうか、勇気を出して他の先生や大人に言うのができないのは現に話を通らないだとか悪化するとかいう理由ですが、勇気を出した結果が最悪の事態を招き入れたときに勇気を出して言った人が何を思うか。それでも間違っていなかったと言えるのならそのほうが問題では。第三者はマネージャーみたいに助けるよりはもっと間接的に被害者がもっと被害を被らないようにするべき。
- ・自分の考えていたことと相異はそんなになかった。
- ・DeAL 教室での授業は楽しかった。
- ・意見を書きやすかった。
- ・機器を使うのが難しかった。
- ・あまり自分たちの身近では感じたことはなかったが、体罰の恐ろしさを知ることができた。小学 1 年生の頃の先生がおそらく体罰教師で、その頃の自分も小学校ってこんなところなんだろうなと思っていたため、被害者の気持ちがよくわかった。
- ・このコーチみたいな人が本当にいるのびっくり。暴力の加害者側の気持ちも考えたけどどうして暴力に繋がってしまうのかわからない。減ってほしい。
- ・こういう授業はあまりしたことがなかったので新鮮だった。
- ・いつもと違う状況での授業でとても楽しかった。
- ・特別編ということで特別感があった。
- ・被害者からの視点だけでなく、加害者、傍観者など様々な視点で体罰について考えることができたので、予防法などが考えやすかった。
- ・勉強になった。
- ・機械を使った授業だったのでみんなの意見がたくさん聞けて良かった。
- ・体罰・暴力はとても怖いこと。
- ・いろいろな対策が考えられてよかった。
- ・体罰に関する心理はわかったがどうやって予防すべき？
- ・今回は、強豪校での出来事が舞台となっていた。強豪校では、そのスポーツを行うことが義務であり、中間テストなどのテストよりも優先させるものである。そのため、強いコーチがいる。今回は、コーチのハラスメントに対し顧問が「強豪校だからしょうがない」と流していた。顧問に相談するという手段がなくなってしまった。このようなシチュエーションの時でもハラスメントを解消するためにはその状態の悪さを表現する必要がある。そのため、チーム全体で相談しに行ったり、他の大人に相談しに行ったりというアクションが必要だと思った。
- ・みんなが「強豪校」のためならこれくらいはしないとイケない、とってしまっていることが分かった。
- ・パワハラが起こらないためには相互のコミュニケーションをもっととることが大切なんだなあって気づかされた。

- ・体罰・暴力系は随分この国から駆逐されてきていずれ無くなって過去の産物になるかもしれませんね。
- ・どの部分をノートにとればいいのか少しわかりにくかった。
- ・まんがに出てくるような人が実際にそうだと感じた。それぞれの考えなどが明言されていたので、状況が理解できた。
- ・チームを思う心があるのを考えると難しいなと感じた。

Q13 まんがアニメーションの感想を自由にご記入ください

- ・完成度高いですね。すごくわかりやすかったです。
- ・わかりやすかったし、見やすかった。続きが見たい。
- ・イラストと声が綺麗でとても見聞きしやすかったです。
- ・わかりやすかった。
- ・見やすくて面白かった。
- ・この世にはやばいやつもいる。
- ・様々な目線のパターンがあってわかりやすい。音声もあるので感情を感じることができる点がいい。ただ私は、少し現実味が薄いように思った。
- ・第3者からの立場と被害者からの立場のアニメーションにあまり差がなく、これなら要らないのではないかと思いました。
- ・ほんとにいそうなコーチ（あおり文句とか）だった。
- ・害者側に悪意がないのが怖いと思いました。
- ・絵が綺麗で面白かったです。
- ・感情移入しやすくなっていると感じた。
- ・アニメーションのスピードが少し遅かったように思う。
- ・面白かった。傍観者は、自分に何ができるのかを考えるべきだと思った。
- ・わかりやすかった。それぞれの登場人物の視点でまんがアニメーションの場面が同じでもその人の見え方がわかりやすくしめされていて良かった。これからも、このような授業でまんがアニメーションを活用していくべきだと思った。
- ・面白かった。でもちょっと時系列がわかりにくかった。
- ・フェルミを思い出しました。
- ・音声がついている必要はあったのでしょうか。ただの漫画で十分だったと思う。
- ・厳しい内容を取扱っているものの、漫画アニメーションによってとっつきやすくなっていたと思う。しかし、それにより少しフィクション感が出ていたような気がする。
- ・授業がより分かりやすくなったのでよかった。
- ・コーチが典型的なダメ人間であまり参考にならなかったように思える。
- ・YouTubeにあるような怪しいチャンネルのような画風、構成で興味深かったです。
- ・男性教師が女子チームを担当することは、少し考えるべきではないのかな?っと思いました。
- ・身近にある出来事という感覚を持つことができたように思える。
- ・体罰を行っていたコーチの言葉にリアリティーがないなと思った。
- ・漫画が面白かった。違うストーリーも見てみたいと思った。
- ・コーチの暴言がすごくてコーチの性格が悪すぎだなと思った。
- ・マネージャーの影が薄いので出番をもっと増やしてほしい。
- ・ストーリーがわかりやすかったし、リアルさもあって考えやすかった。
- ・漫画だから面白い。

- ・体罰は本当に恐ろしいなと思った。
- ・「日本語わかりますか」しか語彙がないのが面白かったです。どこで公開してるか教えて下さい。みたいです。
- ・部員たちの気持ちも知りたい。
- ・「に一ほ一ん一ご一分一かーり一ま一す一かー？」が挑発の感情が込められておりブチギレ感が薄れている。
- ・一つのアニメーションで終わるのではなく、グループディスカッションをするごとに次のアニメーションという流れだったので、楽しく授業を受けることが出来た。また、二回目以降のアニメーションでは、一回目に比べて情報が新しく追加されているので活動的なグループディスカッションを行えた。
- ・先生が何を思って行動をしていたのかがだんだん分かってよかった。
- ・コーチの言動が過激すぎて、あまり現実的にとらえられなかった。
- ・暴力の描写が本当に悲痛で、感情移入できた。迫力があり声優の気概が感じられた。
- ・登場人物の心情が絵に表されていてわかりやすい。
- ・すこし、作画がおかしいところがあったが、物語は十分理解できた。
- ・同じストーリーを別の人の視点から繰り返し見るので、1本目を見たときには想像していなかったようなことが途中でわかることがあった。個人の視点からでは、トラブルを正しくとらえることが難しいことがよくわかって、面白かった。

Q14 この授業で学んだことをご記入ください

- ・体罰、ダメ、ゼツタイ。傍観もダメ。
- ・暴力を見たこともやられたことも今の所ないけれど、もし見かけたら、自分が関わっていないことでもちゃんとその人のために助けてあげるのがいいと思った。
- ・どれだけ相手を思ってやっても一歩間違えると体罰になってしまう。
- ・体罰の悪さ
- ・自分だけで解決するのではなく、友達に相談することが大切。
- ・暴力、体罰は絶対にしてはいけないと再認識した。また、暴言も良くないことで、暴力や体罰よりも簡単にできてしまうためより多くの人が意識しなければいけないのかな、と思う。どこまでが言っても良くてどこからが言っては行けないのかも難しいと感じた。自分が被害にあったり、見たりしたら抱え込まずに、悪いのは完全に加害者なので、誰かに相談することが大切だと学んだ。
- ・体罰が最近取り締まりを強くされているが加害者の気持ちも考えてあげたいなと思った。
- ・実際に体罰などにあつたとしても外部に相談することは案外ハードルが高い。
- ・体罰されたら誰かに言います。
- ・ニュースで見かけると生徒に期待してるし、高めていきたいと思うからこそやってしまうみたいな感じでしょと他人事を感じたが、きちんと考えなければいけないことだと思いました。体罰だけでなく、言葉の暴力も生徒たちを悩ませていくんだなと考えました。
- ・体罰においての各立場の人の考えと行動原理。
- ・加害者（指導者）にも色々な思いはあるけれど、体罰としてそれを教えられのはやはり良くないことだということ。
- ・暴力によって解決することではなく、いかなる時も暴力は奮ってはならないと感じた。先生が絶対であるという考え方は、するべきではないと思った。

- ・体罰はいかなる理由があってもいけない。相手の気持ちを考えた言い方、場を和ます言い方をする。身近で体罰が起こっていたらすぐに身近の信頼できる大人に相談する。
- ・体罰をすぐに報告する。
- ・体罰を見つけたらすぐに訴えること。
- ・人それぞれに立場や考え方があること。人はどういった状況でどのような心理に陥るのかを知ることができた。
- ・暴力はいかなる理由があろうともいけないことだというのが分かった。暴力は受けたことがないけれど、私じゃなくても誰かが受けた場合には冷静に対処したいと思う。
- ・体罰・暴言を黙って見過ごしたりしない。
- ・何があっても暴力はしてはいけない。
- ・体罰している人とかを見かけたときに自分が何をすべきなのか学ぶことができました。
- ・漫画の中のようなコーチが実際にいるということを知った。それを知っていて、自分の気持ちを抑えている人達もいるということを知った。
- ・暴力はよくないということ。みかけたらどうすればいいか。
- ・被害者の心の支えになることが大切。
- ・体罰は一人で立ち向かうものではなく団結して強い力に頼ることが必要。体罰を受け入れるようになってはいけない。
- ・今まで加害者側の視点で考えてみる機会がなかったので、今回の授業でなぜ体罰を行ってしまうのか学ぶことができた。
- ・傍観者もできることがあるからただ黙ってみているだけではなく行動する。
- ・体罰を絶対にしない、見過ごさないようにしようと思った。
- ・体罰を避ける方法
- ・ハラスメントにおいて、怖いから、、この状況がより悪化するから、、という理由で一人で抱え込むのはかえって自分をさらに苦しめることに繋がってしまうので、誰かに相談するなどして対処していく必要があるということ学んだ。
また、今回のように体罰、暴言をコーチが指導者にするというのは犯罪に繋がるため、いかなる理由であってもしてはいけないということを改めて知ることができた。
- ・パワハラは相互のコミュニケーション不足で起きるから、ちゃんと話し合わないため。
- ・体罰や暴力を振る舞ってくるような人に対しては、話し合うことも大切だが話しあっても無駄なケースが多いと思うので、第三者にとにかく相談することが大切だと思った。
- ・体罰などは解決できる。
- ・暴力によって、練習の意欲が下がったりと、よくない。する側に偏った考え方がある場合があるので、話し合いが大事だと感じた。

4.3 セクハラについての自由回答

Q12 授業についての感想を自由にご記入ください

- ・ハラスメントを止めるためにどうしたらいいのかがよくわかんなかった。
 - ・実例を通して学べたのはよかったと思う。
 - ・大樹がやばい人過ぎて気持ちが理解できなかった。
 - ・皆大樹君のこと悪者扱いして大樹君の視点で考えたりしなかったのだろうか…。大樹君の声がエコロっぽかった。
 - ・班員で意見を出し合う形だったのでやりやすかったです。
 - ・気付かない内に加害者になるのが怖い。
 - ・班の人と話すことでより理解ができた。
 - ・第三者（先生）の目線で考えたときに、あの状況ではどうしようもなかったのかなと思ってしまい、よくわからなかった。
 - ・シチュエーションをもっと日常で起こりやすい電車内などにすべきだと思った。また、自分が加害者だと疑われた時にどうすればいいかも授業でやってほしいと思った。
 - ・加害者、被害者の立場に立ってセクハラについて考えることはできたと感じているが、セクハラを見かけた際の対応等については比較的考える事ができなかったと感じている。この授業を通して、無意識のうちに自分も加害者になってしまうかもしれないという危機感を抱くことができた。常に、相手の立場に立って自身の行動を考えたいと思う。
 - ・面白かったです。
 - ・加害者、被害者、第三者として、それぞれの人が注意すべきことがいろいろ存在することが分かった。動画によって視点が分かれていて理解がしやすかった。
 - ・自分たちが気になったことについて実際に丸をつけたりして答えるのがいいと思った。前のスクリーンに皆の意見を集めても文字は見えづらかった。
 - ・同級生でもセクハラは起こり得るということがわかった。
- でも実際に自分自身がセクハラについて関わる場合が想像できない。同性がボディタッチしたりしても、相手が不快だったらセクハラになってしまうのか。また、相手が嫌かどうかを確認するために「触っていい？」などと聞くのもセクハラになるのか。筋肉について褒めた(つもり)だけでもセクハラになるかもだから、難しいなーと思った。
- ・今後、大樹のような人がいたら注意とかけたいと思った。
 - ・漫画の絵がかわいい。見やすい。わかりやすい。
 - ・セクハラという言葉はニュースで聞いたことがあったし、どんなことがセクハラになってしまうのかわかっているつもりだったけど、今回授業でアニメーションを見て改めて、すごい怖いと思った。今回のアニメーションは身近な友達とのトラブルだったけど、これを知らない人に急にされると考えると怖かった。
 - ・セクハラって言葉はあまり詳しく考えることがなく、いけないことというイメージしかありませんでした。でもこの授業を受けたことで、セクハラって子供にもあって意外と身近にあることだと学びました。もし自分が第三者になったらちゃんと被害者を救えるようになりたいです。
 - ・セクハラはだめなことだと知りました。
 - ・加害者が何も知らないのが悪質だと思った。
 - ・ためになりました。

Q13 まんがアニメーションの感想を自由にご記入ください

- ・コマ数が少ない。
- ・やっぱりアニメーションがあると面白い。
- ・大樹くんの精神年齢が低い。
- ・線画がしっかりかかれてた。
- ・見やすかったし理解しやすかったです。
- ・分かりやすかった。
- ・セクハラ被害者、加害者、傍観者の視点それぞれから出来事を見ることができて、良かった。
- ・あまりよくわからなかった。内容はもちろん理解できたけど、例えとして少し分かりにくかった。また、喋り方の方が気になってしまった。
- ・加害者と被害者の立場から描かれている印象が強く、もう少し第三者の目線や対応等を描いても良かったのではないかと感じている。今回の授業では、「無意識のうちのセクハラ」について扱われていたが、実際には「無意識的なセクハラ」より「意識的なセクハラ」が多いと思われる。高校の授業として、意識的なセクハラを取り上げて良いのかという議論はあるかもしれない。しかし、社会に出た際に、電車内でセクハラを見かけた・被害を受けたときなどにどのような対応をすれば良いのか知りたいため、もう少しそれについて考える機会が欲しいと感じた。
- ・同学年からもセクハラになることに驚いた。
- ・大樹くんがイケメンすぎなくてよかった。逆にイケメンだったらセクハラを肯定する声が出そうで怖いと思った。
- ・それぞれの登場人物の視点から見れるようになっていて、心情などが読み取りやすかった。
- ・漫画で見たほうが実感がわきやすかったり、わかりやすいのでいいと思う。
- ・まんがアニメーションだと音声が入っていて気持ちが想像しやすいし、「じーっ」などの実際には音がないものは文字で表現されていてわかりやすい。でもなんか、本当にこんなことあるの？こんな深刻になるの？って思うような出来事だったので少し大袈裟な感じがして現実味を感じづらかった。
- ・あまり想像していたシチュエーションと違ったのでそれも勉強になった。(加害者が同級生とか。)
- ・とてもわかりやすく、面白かったです。
- ・自分が玲奈ちゃんだったらとおもったら怖かった。
- ・絵がうまい。
- ・セクハラがどんな基準でセクハラと呼ばれているのかがわからなかったけれど、この漫画アニメーションのおかげでどんなときにセクハラと呼ばれているのかがわかって、自分が第三者になったときに助けるタイミングが分かる。
- ・丁度いいスピードだと思う。
- ・ちょっと男の子も女の子も可愛そうだった。
- ・もう少し中学生っぽくしてもいいかなと思いました。
- ・発言が現実っぽくて実際にありそうなことだった。
- ・セリフや行動だけでなく心情もわかるようになっていた点が良いと思った。
- ・大樹は中学生として普通にやばいと思いました。
- ・アニメーションでも気持ち悪い・ヤバいと感じたから、現実ではもっとひどく感じるのだと思った。

- ・アニメや漫画を用いることでセクハラが軽んじられてる感が否めなかった。
- ・まんがアニメーションがあり、とてもわかりやすく考えることができました。セクハラなどの問題は自分とはあまり関係のないものだと思ってしまいがちですが、普段の生活の中であり得ることなのだと知ることができました。ですが、少し気になったところもありました。本当にこのようなことは起こり得るものかということです、だいきくんは多分中学 2 年生という設定だったような気がします、中学 2 年生にもなってこのようなことを行う人はいるのか不思議には思いました。
- ・顔の表情などが協調的に書かれていたのでそのキャラクターの心情がとても読み解きやすかった。小学校から仲のいい陸上仲間でも成長していくにつれてお互いがお互いに対していただく考え方、異性としての考え方が変わっていくということが伝わってきた。
- ・コーチが出てきそうな雰囲気があったのに出てこなかったのが気になった。コーチに男の子を注意してほしい。
- ・物語をちゃんと理解できた。
- ・ハラスメントとはいえ、今回のお話のように「悪意がなく」発生してしまうこともあるので、発生そのものを防ぐのは難しいのではないかと思った。ただ、周りが適切に対処すれば再発は防げるようにも感じた。
- ・年齢設定が私たちと近くて会社でなくてもあることが分かった。

Q14 この授業で学んだことをご記入ください

- ・この授業では、セクハラだったが、パワハラや、ハラハラなどにも対応できるようにしておく必要があるよ感じた。
- ・スポーツ以外の時での対処法が知りたい。
- ・不正のトライアングルにならないように、第 3 者も関係ないと思わずに周りをみる。相手が思ったことが全てなので、言い訳は一切通じないことを覚えておく。
- ・相手のことを尊重して考える必要がある。
- ・相手のことを考えるのが大事、ってこと。相手がツイフェミでも同じこと言えるのかね…。
- ・セクハラがどんなものか分かりました。自分の考えが相手にとってどう捉えられるか分からないから、むやみに行動しないほうがいいと思いました。
- ・自分の言動に気をつけたい。
- ・故意でなくても相手が不利益を被ったらハラスメントになってしまうと分かった。
- ・ハラスメントって被害側が嫌だと思わなければ成立しないから嫌だと思わなければいいと思ってたけど、今回の場合嫌そうな雰囲気だけで実際嫌とは本人も言っていなかったし、加害者も理解していなかったし、周りの人が騒いでるだけのような気もしてしまった。
- ・「相手が不快だと感じたらセクハラである」事を忘れてはいけないと感じた。被害者にならないよう、注意をすることも大切だが、自分が加害者にならないように自身の行動を客観的に観察することも大切だと感じている。
- ・セクハラがだめなこと。
- ・自分と他人は違う。
- ・セクハラなどのハラスメントは、加害者が故意に行っていなくても当てはまる、と知り、知識をつけておくことが大切なのだと分かった。また、加害者だけではなく、被害者、第三者も対応できることはある。本人たちは不快ではなくても、見ている人た

ちが不快になることもある。

- ・セクハラは肉体的、言葉によるもの、言葉によらないものがあるとわかった。自分は良くても相手は嫌かもしれないから気をつけないといけない。被害者も一度、嫌だ、と伝えないとわからないから加害者もエスカレートしていつてしまうと考えた。
- ・自分は気にしていなくても、相手が気にしていたらダメだということ。
- ・自分も人をいつの間にか見つめてしまう癖があるので気を付けた方がいいかもしれないと思った。
- ・性別が逆だったらどうなるんですか。
- ・セクハラは被害者だけでなく周りをも不快にさせてしまう。
- ・セクハラ・パワハラ〇〇ハラっていうものが増えてきて、意味がいまいちわかっていなかったけど、セクハラの意味はよくわかりました。
- ・セクハラはいけないこと！相手と自分は違う！
- ・セクハラはしてはいけません。
- ・セクハラといういつ起こり得るかわからない問題について詳しく知りたい。
- ・年齢が上がっていくとともに行動も考えていかないといけないということが分かりました。これから気をつけていきたいです。
- ・加害者の意思は関係なく、被害者側が嫌な思いをしたらセクハラになる。
- ・心も体も成長しているため、男女の関わり方も考えなきゃいけないと思った。
- ・ハラスメントについて様々な視点で考え、それぞれの立場になったときにどうすればいいのか知ることができた。
- ・私とあなたは感じることはまるっきり違って、その差を認識しなければ周りに迷惑がかかり、自分が加害者になってしまう危険があること。被害者もだが、傍観者も声を挙げないと大きな事故・事件が起こる可能性があること。
- ・私からすれば、当たり前のようにしてはいけないと思っていることでも、他の人からすればそれは当たり前ではないのかもしれないということを学びました。自分の考えていること全てが相手と同じとは思ってはいけないと学びました。また、被害者にならないためにも私が気をつけなければいけない点も学びました。私はスカートを制服などの関係ではいることが多いのですが、ある程度の節度を守るということです。私は、そこまで短くありませんが、短い人もよく見かけるので、私もそれにのまれないようにしたいと思っています。
- ・ハラスメントという行動は、一部、人としての尊重という気持ちがかけてしまっていると思う。そのため、私たちがハラスメントに対しての知識を十分に身に着けたり心の面での成長の個人差などの理解をきちんと深めることが重要になり、それらがハラスメントを無くす社会につながると思う。
- ・自分がどう思うかじゃない、相手がどう思うかだ。ということ学んだ。
- ・嫌ならちゃんと嫌だと言えることが、大切になるのではないかなと思いました。許可をとるとらないに関わらないんじゃないかなと思った。
- ・自分のしている行動が相手に嫌な思いをさせてないか少し怖い。
- ・第三者になったときに、いかに当事者たちの立場に立って解決にもっていくかが大切だと思った。問題が起きたときに同じ部活に所属する先輩としてその問題を放置せずに解決しようと思って行動できることも大切だと思った。
- ・仲が良い存在同士でもセクハラになることがある。
- ・本人に悪気がない場合もあるが、相手が嫌がったらそれはセクハラなので、周りがかちゃんと指摘してあげるのが大事だと感じた。
- ・故意にやっていない場合もあるのが怖い。相手の気持ちになることが大切。

本報告書の無断複製、転載、引用等を禁じます。

一般社団法人スポーツ・コンプライアンス教育振興機構

〒105-0003

東京都港区西新橋 2-2-2 澤ビルディング 3F

TEL : 03-5521-2205 FAX: 03-3581-2210

E-mail : info@spo-com.org